

令和 8 年度

シラバス

3 年生（文系）



国 語
地歴公民
数 学
理 科
保健体育
芸 術
英 語
家 庭
教育課程表

岐阜県立斐太高等学校

科目	論理国語		年次	3	指導クラス	3年A～G組	指導者名	
単位数	2	使用教科書	探求 論理国語 (桐原書店)		副教材・問題集等		大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000 (尚文出版) 即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 [四訂版] (桐原書店)	

1. 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

3. 学習の計画

月	指導の領域 指導時間		単元名	指導項目 (単元目標)	主な言語活動	評価の場面 ・方法	評価の 観点			教材名
	書く	読む					a	b	c	
4		4	評論Ⅰ 二項対立による比較対照に着目し、評論の読み方に習熟する。	二項対立による比較対照に着目しつつ、視覚でものを捉えるときに感覚的喜びを理解し、筆者の主張を踏まえて、まとめる。	筆者の主張を参考にしつつ、自分自身が芸術に触れる際の感性を磨くことができる場面を考え、交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	オブジェとイマージュ
5		4	評論Ⅰ 評論文の読み方を習熟し、主題である「人の生と死」について、自身の考えを持つ。	死を考える人間の美学や人間の生きる論理などを把握し、どう扱うべきかについて考え、人間が生きることについて、死と向き合うこととあわせて考察する。さらに自分自身が生きることについて考える。	二つの文章の主題である「人の生と死」について本文を踏まえつつ、自分自身が生きることについて考察し、意見交換をする。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	人間の領域
	2	2	<知>の深化 「人間の領域」について、主題に関連する文章を読みながら、自分の考えをまとめる。	2つの文章の共通点を理解し、まとめつつ自分の主張について根拠を持って表現する。						
6		1	中間考査				○	○		
	6		評論解析C 評論の基本的な読み方を習得する。	指示内容を的確にとらえるとともに、本文中の対比関係に注目して、論理構造や筆者の主要な見解をつかむことや効果的な表現から文脈を捉え、論理の展開や筆者の主要な見解をつかむことで正確な読解をする。	・萱野稔人「権力にまつわる『秘密』」と読み比べ、両者の主要な見解の共通点と相違点をまとめ、自身はどちらの主張に賛同するかについて説明する。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	権力にまつわる「秘密」 メディアと民主化
7	2	2	評論Ⅱ 緊密な論理で構成された評論文を、部分ごとの相互関係を理解しながら丁寧に読み、論旨の流れを把握する。	本文の部分ごとの相互関係を理解しながら丁寧に読み、論旨の流れを把握し、「近代家族」や「市民社会」に対する筆者の問題意識を理解する。	本文を参考にしつつ、これからの家族のあり方について考え、発表をする。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	市民社会化する家族

	3	実社会 実用的な文章の基本的な読み方を習得する。 志望理由の書き方を身につけるとともに、読む人の心を動かす文章について考える。 同じ内容の文章でもメディアの違いによる伝え方の違いを読み取る。	志望理由の書き方や正しい文章の書き方を理解し、説得力のある志望理由を書く。また、「はやぶさ2」の活躍について、メディアの違いによる伝え方の違いを読み取る。	進学先の志望理由を書き、発表する。また、興味のある分野に関する新聞記事を図書館から見つけて、紹介する。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	志望理由を書く ニュースを読む
8 9	5	「書く」 筆者の主張を早く的確に捉え、要約する。 本文を踏まえて、説得力のある小論文を書く。	知的創造には他者との対話が必要である、という筆者の主張を読み取り、知的能力を創造性に結びつけるためには、自分自身の側にも、言いたいことがある種の執念のようなものとしてなければならないという筆者の主張を理解する。	本文を踏まえつつ小論文を書き、発表するとともに、クラスメイトの小論文を添削する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	知的創造のために 「書く」ことに挑戦—小論文を書く
	3	評論Ⅲ 評論文を早く正確に読むことを意識して読解する。	言語論における基本的な考え方への理解を深めるとともに、言語論を踏まえて、日本語や日本文化の問題について考察する。	日本語の問題について、他の文章を用いて説明する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	言葉の〈意味〉と〈表徴〉
	1	期末考査				○ ○			
10	3	体験と思索 作者の体験を基にした随想を正確に読み取る。	「沙魚」をめぐる初老の料理人とのやりとりを描いた文章を読んで、筆者の思索の推移をたどり、心情を読み解く。また、東京大空襲を題材とした文章を読み、戦争や平和の問題について認識を深める。	戦争や平和の問題について現在でも問題になっている事柄を調べ、自身の意見を述べる。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	沙魚
	4 1	評論Ⅳ 現代社会の特徴を理解するとともに、正確な速読の力を深める。	情報技術の発展によって、多様な価値観を生み出す一方で、強力な管理社会を生み出すという筆者の見解を理解し、ポストモダン社会をどのように生きていくか自分の問題として捉える。	本文と評論コラム5を読み、ポストモダンの特徴をまとめ、自身の意見を書く。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	ポストモダンと排除社会
11	3 3	評論Ⅴ 民主主義の特徴を把握し、作者の主張をまとめる。	民主主義社会の特徴について整理し、筆者の主張する対話の意味について考える。	我々が目指すべき民主主義のあり方について、自分の考えをまとめて、発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	真理の探求と民主主義
	1	中間考査				○ ○			
12 1 2	5 15	特別編成授業 Ⅰ期 Ⅱ期	・今までの総復習をする。 ・入学試験に向けて、時間配分や解き方などを習熟する。 ・各大学別の過去問題や他大学の入試問題を解くことにより、多様な問題に対応する実力を伸ばす。		行動観察 課題確認	○ ○	○ ○	○ ○	
指導 時数	書	読							
	30	40							
	70								

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けている。
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査（前期中間・前期期末・後期中間）
- ・毎週1回の現代文単語テスト
- ・長期休暇明けの課題考査1回（夏）および課題への取り組み状況
- ・その他不定期に行う小テスト（漢字・語句等）
- ・学習への参加状況（予習・復習・ノート）

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

1・2年で学習した現代の国語・論理国語に引き続き更に読解力、想像力が必要となる評論を読み進めていきます。また、後期中間考査以降は実践演習に入りますが、それまで継続して以下の点に注意して日々の学習を進めてください。

①日々の授業を大切にすること。

現代文は他の科目とは異なり、知識を付けるものではありません。授業で扱う教材に親しみながら、筆者の主張や主題、表現に触れることが、言語能力の醸成につながります。

②予習、課題を欠かさず行うこと。

限られた時間で行われる授業だけでは、教材やその内容を完結させることは容易ではありません。予習、課題を欠かさず行うことで、やっと完結するものです。手を抜くことなく取り組みましょう。

③問題集を丁寧に解くこと。

授業で扱う文章は限られたものです。多くの文章に触れて読む訓練、書く訓練をしてください。また、模範解答にもしっかりと目を通し、問題を解くポイントを学んでください。

④毎回の現代重要語小テストに必ず合格すること。

短期間で語彙力を伸ばすことは不可能です。小テストを利用し、一年を通して語彙力を付けていきましょう。

科目			国語特講		
単位数	2	使用教科書	改訂版 テーマ詳説 現代評論選 (数研出版)	副教材・問題集等	改訂版テーマ詳説現代評論選準拠ノート (数研出版) 大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000 (尚文出版) 即戦ゼミ 入試頻出 新国語問題総演習 [四訂版] (桐原書店)

1. 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
実社会に必要な国語の知識や技術を身に付けている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

3. 学習の計画

月	指導の領域 指導時間		単元名	指導項目 (単元目標)	主な言語活動	評価の場面 ・方法	評価の 観点			教材名
	書く	読む					a	b	c	
4	2	3	言語 言語分野についての理解を深め、著者の主張を丁寧に読み取り、言語に関する興味を深める。	言語とは何かを整理しつつ、人間が世界を把握する方法が言語ごとに異なる理由を説明する。 日本語の二重性を理解し、長所と短所をまとめる。	二つの文章の要旨を踏まえつつ、言語について考察したことを書く。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	テーマ詳説言語 言語学とは何か 日本語の国際性
5	2	5	情報 情報分野についての理解を深め、著者の主張を丁寧に読み取り、情報に関する興味を深める。	二項対立を捉えつつそれぞれの長所と短所を理解し、例を用いて「マッピング」を説明したり、「メディア」について説明したりする。	二つの文章の要旨を踏まえつつ、情報について考察したことを書く。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	テーマ詳説情報 活字中毒患者は電子書籍で本を読むか？ メディアと倫理
6	1		中間考査				○	○		
	2		国際 国際分野についての理解を深め、著者の主張を正確に読み取り、国際に関する興味を深める。	筆者の主張を捉え、「なんとなく、日本人」を維持するために必要なことを整理する。	グローバル化について調べたことをまとめ、発表する。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○	○	テーマ詳説国際 なんとなく、日本人
	2	3	科学 科学分野についての理解を深め、根拠を明確にしなが著者の主張を正確に読み取り、科学に関する興味を深める。	「科学」「文明」「倫理」などの定義を正確に把握し、著者の主張をまとめる。	二つの文章の要旨を踏まえつつ、科学について考察したことを書く。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○	○	○	テーマ詳説科学 社会に生きる科学 文明の矛盾
7	3	3	社会 社会分野についての理解を深め、根拠を明確にしなが著者の主張を正確に読み取り、社会に関する興味を深める。	「群衆」を定義しつつ、「群衆」に相反する二つの性質を説明する。	本文を踏まえつつ「近代」の特徴を考察し、小論文を書く。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○	○	○	テーマ詳説社会 群衆の生成と消滅

8 9	2	社会 社会分野についての理解を深め、根拠を明確にしなが著者の主張を正確に読み取り、社会に関する興味を深める。	「逆説」の言葉を理解しつつ、本文においてどういう点で逆接になるか説明する。	近代における思想を調べ、発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	グローバルズムとニヒリズム	
	2	4	芸術 芸術分野についての理解を深め、根拠を明確にしなが著者の主張を正確に読み取り、芸術に関する興味を深める。	「近代の芸術」や「感性」について説明しつつ、筆者の主張をまとめる。	二つの文章の要旨を踏まえつつ、芸術について考察したことを書く。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	テーマ詳説芸術 美学への招待 感性は感動しない
	1	期末考査					○ ○			
10	2	4	思想 思想についての理解を深め、根拠を明確にしなが著者の主張を素早く正確に読み取り、思想に関する興味を深める。	難解な文章を正確に読み取り、「安楽」や「顔」などについて説明する。	二つの文章の要旨を踏まえつつ、芸術について考察したことを書く。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	テーマ詳説思想 安楽への隷属を拒め 顔の現象学
11	1	3	環境 環境についての理解を深め、根拠を明確にしなが著者の主張を素早く正確に読み取り、環境に関する興味を深める。	「集団」と「個」の関係性を捉えつつ、著者の主題を整理する。	環境について調べ、意見交流をする。	行動観察 ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	テーマ詳説環境 集団への個の解体
	1	3	文学 文学についての理解を深め、根拠を明確にしなが著者の主張を素早く正確に読み取り、文学に関する興味を深める。	「詩人」と「読者」の関係性を読み取り、詩的感動がうまれる経緯を整理する。	文学について調べ、意見交流をする。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	テーマ詳説文学 想像力
	1	中間考査					○ ○			
12 1 2	15	5	特別編成授業 Ⅰ期 Ⅱ期	・今までの総復習をする。 ・入学試験に向けて、時間配分や解き方などを習熟する。 ・各大学別の過去問題や他大学の入試問題を解くことにより、多様な問題に対応する実力を伸ばす。		行動観察 課題確認	○ ○ ○	○ ○ ○		
指導 時数	書	読								
	30	40								
	70									

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	・言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けることができる。
思考・判断・表現	・目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させることができる。 ・必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させることができる。
主体的に学習に取り組む態度	・様々な文章を読解し、現代社会に根付いた価値観を理解することができる。 ・国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ることができる。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ①年3回の定期考査（前期中間・前期期末・後期中間） ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ②長期休暇明けの課題考査1回（夏）および課題への取り組み状況
- ③学習への参加状況（ノートづくり、話し合いへの取り組み状況・授業中の発言など）
- ④毎週1度の現代重要語小テスト

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

1・2年の学習に引き続き更に読解力、想像力が必要となる様々な文章を読み進めて行きます。また、後期中間考査以降は実践演習に入りますが、それまで継続して以下の点に注意して日々の学習を進めてください。

- ①日々の授業を大切にすること。

現代文は他の科目とは異なり、知識を付けるものではありません。授業で扱う教材に親しみながら、筆者の主張や主題、表現に触れることが、言語能力の醸成につながります。

- ②問題集を丁寧に解くこと。

授業で扱う文章は限られたものです。多くの文章に触れて読む訓練、書く訓練をしてください。また、模範解答にもしっかりと目を通し、問題を解くポイントを学んでください。

科目	古典探究		学年・年次		3年文系
単位数	3	使用教科書	高等学校 古典探究 (数研出版)	副教材・問題集等	体系古典文法（数研出版） 必携新明説漢文（尚文出版） 即戦ゼミ入試頻出 新国語問題総演習（桐原書店）

1. 科目の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わる中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3. 指導及び評価計画

月	指導の領域 指導時間	単元名	指導項目 (単元目標)	主な言語活動	評価の 場面・方法	評価の観点			教材名
						a	b	c	
4	4	随筆 ・敬語の理解を深める。 ・当意即妙を理解する。 ・同じ内容の違う作品を読み比べ、共通点や相違点を理解する。	・清少納言の振舞について、説明する。 ・当意即妙について話し合う。 ・『古本説話集』と読み比べをし、違いや共通点を説明する。	登場人物の心情と作品の違いについて説明し、話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	二月つごもりごろに (枕草子) 清少納言がこと (古説話集)
		逸話 ・「知音」の意味を理解する。 ・正確に書き下し文にし、文章を要約する。	・伯牙が「破琴絶弦、終身不復鼓琴」としたのはなぜか、説明する。 ・周処がなぜ心を入れ替えようとしたのか考える。 ・陸雲は周処にどのような助言をしたのかまとめる	短文の要約方法と速読の方法について話し合いをする。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	知音 (呂氏春秋) 三横 (世説新語)
		日記文学 ・和歌の修辞を正確に解釈する。 ・夫婦の和歌のやりとりを通じて、それぞれの心情を理解する。	・それぞれの歌について修辞法を確認する。 ・作者と兼家との間にどのようなことが起こったのか、時間を追って整理する ・「嘆きつつ……」の歌を「例よりはひきつくるひて書きて、うつろひたる菊にさし」で贈った作者の気持ちについて話し合う。	菊を和歌に添えて送ったことの効果について、話し合い、似た事例を発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	父の離京 うつろひたる菊 (蜻蛉日記)
5	7	日記文学 ・引き歌の効果について理解する。 ・貴族の感性について理解を深める。	・「土御門殿のありさま」のどのようなところが「いはむかたなくをかし」なのか、整理し説明する。 ・「女郎花……」と「白露は……」の二首の歌はそれぞれどのようなことを伝えようとしているのか、考える。 ・「同じ枝に……」の歌の「ほととぎす」「声は変はらぬ」という表現がどういう意味を持って使われているか、考える。	この作品以外の頻出の引き歌や和歌における象徴的な意味を持つ単語を調べ、発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	土御門邸の秋 (紫式部日記) 薫る香に (和泉式部日記)
		小説 ・漢文の小説を理解する。 ・話の特徴や主題を捉え、要約する。	・本文に見られる鬼の特徴をまとめる。 ・宋定伯の知恵が読み取れる言動を整理する。 ・県令の人柄や判断した理由をまとめる。 ・本文に用いられている疑問の句法を抜き出し、それぞれの読みと意味を確認する。	漢文の小説の特徴をまとめ、交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	売鬼 (捜神記) 落雷裁判 (閑微草堂筆記)
6	1	前期中間考査				○	○		

	10	物語 ・古典常識について、幅広く理解する。 ・主語や目的語を補い、正確に話を理解する。 ・登場人物の心情を深く理解する。 ・和歌を正確に解釈する。	・本文中から、光源氏に対する六条御息所の思いが読み取れる箇所をあげて、その心情を説明する。 ・本文中から、六条御息所・葵の上・光源氏の従者たちの言動が描写された箇所をあげて、その内容を説明する。 ・「笹の隈にだにあらねばにや……」について、『古今和歌集』神遊びの歌の引用がどのような効果を与えているか、調べてまとめる。 ・入内した姫君を見て、紫の上と明石の君とが、どのような思いを抱いたか、整理する。 ・直接に会った紫の上と明石の君は、互いをどのように見たのか、整理する。 ・柏木の、女三の宮への思いがどのように描かれているかや、この場面での女三の宮の女房たちの行動とそのありようをまとめる。 ・「橋の小島の色は…」の歌の修辞法を説明し、この歌に込められている気持ちと、この歌を聞いた匂宮の感想とを説明する。	源氏物語を読み、テーマである「ものあはれ」について考えたこと、感じたことを交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	車争い 明石の姫君 入内 柏木と女三の宮 浮舟 (源氏物語)
7	6	漢詩 ・古体詩の特徴を理解する。 ・漢詩を深く読み取る。	・漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。	印象に残った詩を挙げ、どこが印象的であるかを話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	【古体詩】 桃夭 (詩経) 飲酒 (陶淵明集)
8 ・ 9	10	史伝 ・王朝の変遷を捉える。 ・漢詩を踏まえて、内容を理解する。 ・比喩を正確に捉えて、内容を把握する。	・伯夷・叔斉の作った歌には、自分たちの運命に対するどのような気持ちか込められているか考える。 ・夏から殷、殷から周という王朝交代の経緯を調べてまとめる。 ・司馬遷は顔淵と盗跖を何の例としてあげているか説明する。 ・「天道是邪非邪」には、司馬遷のどのような気持ちが込められているのか考える。 ・藺相如が秦に着いたとき、秦王はどのような応対をしたか説明する。 ・それに対し藺相如はどのような行動で対抗しようとしたか説明する。 ・この逸話に由来する「完璧」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。 ・廉頗は最初、藺相如をどのように思い、どのような態度をとったかまとめる。 ・藺相如は廉頗に対してどのような態度をとったか、理由とともにまとめる。 ・「刎頸の交わり」という成語は、現在どのような意味で使われているか調べる。	中国王朝の変遷について、本文以外の事例を調べ、交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	伯夷・叔斉(『史記』伯夷列伝) 廉頗・藺相如(『史記』廉頗藺相如列伝)
	1	前期期末考査				○ ○			
10	8	歴史物語 ・和歌の修辞法を再確認する。 ・語り手の意見や判断を把握し、まとめる。 ・『栄花物語』で本文と同内容の箇所を読み、表現などの違いを読み比べる。	・「照る月を……」「白雲の……」の歌から掛詞・縁語を指摘する。 ・本文中の和歌三首は、それぞれどのような点が評価されているのか説明する。 ・本文では醍醐天皇をどのような人物として描いているのか考える。 ・本文から兼通が心の中で思っている部分を抜き出す。 ・語り手である侍の意見・判断が述べられている表現を抜き出す。 ・兼家と兼通が帝のところに参上した理由をそれぞれ説明する。	同じ出来事を語る『大鏡』と『栄花物語』との間に、内容や語り方でどのような違いがあるのか話し合う。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	貫之と躬恒 最後の除目 (大鏡)
	4	文章 ・登場人物の心情やその当時の生活を本文より読み取り、まとめる。	・蔣氏が涙を流したのはなぜか、考える。 ・村人の生活と蔣氏の生活の違いをまとめる。	柳宗元はなぜこの文章を執筆したのかについて考察し、発表する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	捕蛇者説 (柳河東集)
11	10	文章 近世随筆 ・古文の評論文の特徴を理解する。 ・作者の主張を正確に読み取る。	・清少納言が地方に落ちぶれたことについて、筆者はなぜそう思ったと考えているか、まとめる。 ・紫式部が『源氏物語』を執筆する経緯についてどのように述べているかをまとめる。 ・筆者は紫式部をどのような人物と捉えているか、まとめる。 ・「秘事といふことの大用」をどのように考えているのか説明する。 ・「弓矢の道」の話は、何をどのようにとらえているのか説明する。 ・筆者は「わが師の心」をどのように受け取っているか、まとめる。 ・筆者は「学問の道」をどのように理解し、どのように対するのがよいと考えているか、まとめる。	古典の評論文と現代の評論文の違いを考察し、交流する。	行動観察 課題・レポート ワークシート 振り返りシート	○ ○	○ ○	○ ○	清少納言と紫式部 (無名草子) 秘すれば花 (風姿花伝) 師の説になづまざること (玉勝間)
	1	後期中間考査				○ ○			

12 1 2	30	特別編成授業 I 期 II 期	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの総復習をする。 ・入学試験に向けて、時間配分や解き方などを習熟する。 ・各大学別の過去問題や他大学の入試問題を解くことにより、多様な問題に対応する実力を伸ばす。 	行動観察 課題確認	○	○	○
指導 時数	読むこと						
	105						

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ①年3回の定期考査（前期中間・前期期末・後期中間） ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ②長期休暇明けの課題考査1回（夏）および課題への取り組み状況
- ③学習への参加状況（ノートづくり、話し合いへの取り組み状況・授業中の発言など）
- ④毎週1度の古文単語テスト

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

<p>古典は予習をして授業に臨むことが基本です。予習は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本文を一読する。（古文特有の表現に慣れなければ、現代語訳ができるようになりません。） 2. 本文をノートに書き写す。（上記の通りです。） 3. 文法事項に留意して、現代語訳をする。（分からない箇所があってもとにかく現代語訳を自力でやりきってください。） 4. 調べた語句や古典常識についてまとめる。（同じ事を何度も調べては、学習の効率が悪いです。） <p>まずは多くの古典作品に触れ、古文特有の表現に慣れる必要があります。その上で、現代語訳を丁寧に地道に進めていくことが古文の学習の一番の近道になります。初めは分からない箇所も多く、思ったように現代語訳をすることはできないかもしれません。しかし、そこで自力で学習することを放棄してしまえば、古文を理解することは困難になるでしょう。まずは予習と授業を真面目に進めていくことが、古文の力を付けることに直結します。頑張りましょう。</p>
--

科目	日本史探究		年次・コース	3年文系クラス
単位数	3	使用教科書	副教材・問題集等	新詳日本史（浜島書店） 要点整理ゼミナール日本史（浜島書店） 山川一問一答日本史（山川出版社）
		詳説日本史 （山川出版社）		

1. 科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	第10章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 2 土層・天明期の文化	12	①農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ②幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ③江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。 ④幕府や藩による武士の教育に加え、民間でも私塾や寺子屋が開かれた背景について理解する。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○
5	第10章 幕藩体制の動揺	3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	8	①欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕府の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ②近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ③化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。 ④都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○
	第11章 近世から近代へ	1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	6	①国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ②江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ③幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の掃蕩に至るまでの過程を理解する。 ④近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○
6	歴史資料と近代・現代の展望	1 五箇条の誓文と国是 2 貿易の変遷からみる日本の近代・現代	2	①五箇条の誓文のあつかわれ方について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につける。 ②諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近代・現代の歴史について仮説を表現して展望する。 ③日本の近代・現代における輸出入品の推移から、情報を収集して読み取る技能を身につける。 ④諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近現代の日本の産業の在り方や課題について仮説を表現して展望する。	行動観察 プリント	○	○	○
			1	前期中間考査		○	○	
	第12章 近代国家の成立	1 明治維新と富国強兵	9	①明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ②欧米文化・思想の導入と近代的政策に対する土族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ③明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する対外政策の違いについて考察する。	行動観察 プリント 小テスト 振り返りシート 課題レポート	○ ○	○ ○	○ ○
7	第12章 近代国家の成立	2 立憲国家の成立	4	①政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 ②大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○
	第13章 近代国家の展開	1 日清・日露戦争と国際関係	7	①東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進化した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ②開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○

8 9	第13章 近代国家 の展開	2 第一次世界大戦 と日本	8	①第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の 発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 ②第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジ ア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ①ワシントン体制に至る国際協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場 に着目して理解する。 ②民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党 政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察 する。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○
		3 ワシントン体制						
	第14章 近代の産 業と生活	1 近代産業の発展	8	①日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革 命や近代産業の発展に着目して理解する。 ②近代産業の発展ともなう社会問題（労働問題・公害問題）の発生と政府の対 応について考察する。 ①伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文 化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ②義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解す る。 ①労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市 民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。 ②大衆文化の前提となる教育の普及・発展、マスメディアの発達について理解す る。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○
		2 近代文学の発達						
		3 市民生活の変容 と大衆文化	1	前期期末考査		○	○	
10	第15章 恐慌と第 二次世界 大戦	1 恐慌の時代	16	①戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況 と対策に着目して理解する。 ②社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協 調外交が挫折していく過程を考察する。 ①日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政 党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 ②恐慌から脱出し、国家主義が高揚する中で、五・一五事件から二・二六事件に かけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。 ①日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入に至る過程について、国民生活の変化や 諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。 ②第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が 空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努め る重要性を認識する。	行動観察 プリント 小テスト 振り返りシート 課題レポート	○ ○	○ ○	○ ○
		2 軍部の台頭						
		3 第二次世界大戦						
11	第16章 占領下の 日本	1 占領と改革	8	①戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主的政策とそれともなう 諸改革について、その過程と内容を理解する。 ②戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。 ①東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意 義を考える。 ②連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国 の立場から考察する。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○
		2 冷戦の開始と講 和						
			1	後期中間考査		○	○	
12	第17章 高度経済 成長の時 代	1 55年体制	7	①独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年 体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 ②冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への 加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立後の日 本の動きを考察する。 ①朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国 内の技術革新などの側面に着目して考察する。 ②消費革命による社会の変貌と、経済成長がもたらしたはずみである社会問題に ついて理解する。	行動観察 プリント 小テスト	○ ○	○ ○	○ ○
		2 経済復興から高 度経済成長へ						
1	第18章 激動する 世界と日 本	1 経済大国への道	5	①ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理 解する。 ②高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え 、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。 ①冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済 ・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 ②科学技術・産業の発達によっては征する環境問題やエネルギー問題などの日本 の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	行動観察 プリント 小テスト 振り返りシート 課題レポート	○ ○	○ ○	○ ○
		2 冷戦の終結と日 本社会の変容						
2	現代日本 の課題の 探究	様々な災害と日本	2	①災害を題材に、諸資料から情報を読み取って考察し、それを表現する方法を学 ぶ。 ②事例を参考に、自ら適切な主題を設定して歴史を探究し、表現する。	行動観察 プリント	○	○	○
			105					

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	○日本の歴史の変化に関わる諸事象の基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身に付けているか。また、学び方を身に付けているか。 ○日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。また得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身に付けているか。
思考・判断・表現	○日本の歴史の変化に関わる諸事象から課題を見出し、広い視野から多面的・多角的に考察しているか。 ○課題について国際社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。
主体的に学習に取り組む態度	○日本の歴史の変化に関わる諸事象の基本的な課題や事柄について関心を高め、主体的に追究しているか。 ○歴史的事象を総合的に考察しようとする態度を身に付けているか。

○よりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付けているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況进行评估します。
- ・定期考査以外に適宜、確認テストによって単元ごとの習得の状況を確認します。
- ・課題追究学習の際のレポート、学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- ・自己評価、振り返りシートを参考とします。

また、評定は、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

歴史など勉強しなくていい、そう思う人もいるでしょう。しかし、この数年、歴史的な出来事が多く起こっています。正に歴史の中を生きているという実感があります。時代の変化や大きな事件、災害、さまざまな課題に直面した時に、どのように考え、対処していくことが求められるでしょうか。その答えははっきりと示されてはいませんが、ヒントは歴史の中にあります。これまで多くの時代の変わり目がありました。先人たちの歴史の営みを学ぶことで、よりよい考えがみつかるかもしれません。「私」自身や「私のまわり」の物事や現象について考えるとき、それらには歴史的な背景があり、そのようになっていることを意識するとよいのか。「私たち」は歴史の中の当事者です。当事者として、身近なところから学ぶきっかけを見出し、問いを設定して歴史を考えてみませんか？

科目	世界史探究		学年	3	指導クラス	3年CD組	指導者名
単位数	3	使用教科書	詳説世界史（山川出版社）		副教材・問題集等		ニューステージ世界史詳覧（浜島書店） 要点整理ゼミナール世界史（浜島書店） 世界史一問一答【完全版】（東進ブックス）

1. 科目の目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能（技術） a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代や世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

3. 指導及び評価計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	1 オスマン帝国とサファヴィー朝	2	①オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 ③オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		2 ムガル帝国の興隆	4	①ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		3 清代の中国と隣接諸地域	4	①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ③漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
5	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	1 ルネサンス	2	①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		2 宗教改革	1	①それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。 ②カルヴァンの教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を理解する。 ③カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		3 主権国家体制の成立	2	①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ②16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。 ③アウクスブルクの和議とウェストファリア条約の異なる点を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○

6	4	オランダ・イギリス・フランスの台頭	4	①17世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②17世紀における2つのイギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。 ③近世フランスの強みと課題を多面的・多角的に考察し表現する。 ④イギリスとフランスの覇権争いがグローバルな戦いになった背景を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		定期考査	1			○	○	
	5	北欧・東欧の動向	2	①主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置を理解する。 ②ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。 ③プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。 ④啓蒙専制主義の特徴を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	6	科学革命と啓蒙思想	2	①科学革命の成果について、自然法則の発見以外にも着目して理解する。 ②科学革命がヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③従来の学知の展開と比較したうえで、「実用の学」としての啓蒙思想の意義を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
第12章 産業革命と 環大西洋革命	1	産業革命	4	①海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。 ②イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③16世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	2	アメリカ合衆国の独立と発展	2	①北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。 ②独立直後と今日のアメリカ合衆国を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
7	3	フランス革命とナポレオンの支配	4	①革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ②人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	4	中南米諸国の独立	2	①ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較したうえで理解する。 ②中南米諸国の独立運動に共通する点を理解する。 ③中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
第13章 イギリスの 優位と欧米 国民国家の 形成	1	ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動	4	①ウィーン会議の参加者たちがどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。 ②ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③19世紀イギリスの政治変革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。 ④イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想をそれぞれ比較したうえで理解する。 ⑤1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	2	列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	4	①クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスのそれぞれの思惑を理解する。 ②19世紀後半におけるロシア・イギリス・フランスの諸改革の相違点を理解する。 ③ドイツとイタリアの国民国家成立を比較し、共通点と相違点を理解する。 ④ドイツ帝国におけるビスマルクの諸政策の動機を多面的・多角的に考察し表現している。 ⑤北欧諸国の安定性について、周辺諸国と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥19世紀後半にさまざまな国際運動が進化した背景を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
8 ・ 9	3	アメリカ合衆国の発展	4	①領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。 ③アメリカ合衆国の歴史において移民が持つ意味を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	4	19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	2	①19世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。 ②国民文化と国民国家形成との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③近代諸科学の発展の要因とその成果が広まった背景を理解する。 ④大都市文化が都市の景観に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
第14章 アジア諸地 域の動揺	1	西アジア地域の変容	4	①オスマン帝国の動揺の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②オスマン帝国の列強への経済的な従属化の経緯を理解する。 ③オスマン帝国の改革の成果と課題を理解する。 ④ロシアとイギリスの競合関係が西アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	2	南アジア・東南アジアの植民地化	4	①ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動の状況を理解する。 ②イギリス東インド会社の機能の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東インド会社の統治と比較したうえで、イギリスによるインドの直接統治の特徴を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○

				④東南アジアの植民地化の経緯を理解する。 ⑤タイが植民地化されなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ・突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。 ・ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。				
		3 東アジアの激動	4	①清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②中国の開港の背景および開港の進展の経緯を理解する。 ③清朝による国内秩序の再建の試みについて、その成果と課題を理解する。 ④東アジア各地の開港および貿易の拡大がもたらした影響を理解する。 ⑤欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		定期考査	1			○	○	
10	第15章 帝国主義と アジアの民 族運動	1 第2次産業革命と帝 国主義	2	①新しく生まれた電気・化学製品が人々の日常生活に与えた影響を理解する。 ②帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解する。 ④この時期に国際労働運動が再燃した背景とその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		2 列強の世界分割と列 強体制の二分化	4	①列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ②列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。 ③独立後のブラジル・アルゼンチン・メキシコがたどった道を比較し、共通点と相違点を理解する。 ④20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		3 アジア諸国の変革と 民族運動	4	①日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②改革をおこなったにもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。 ③インドにおける民族運動の社会的背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ④東南アジア各地の民族運動に共通する傾向を理解する。 ⑤西アジア各地における民族運動の共通点を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	第16章 第一次世界 大戦と世界 の変容	1 第一次世界大戦とロ シア革命	4	①バルカン半島で緊張が高まった背景を理解する。 ②歴史上はじめての世界大戦が勃発した原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③戦時外交および総力戦の特徴を理解する。 ④第一次世界大戦がもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ロシア革命の経緯を理解し、その歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		2 ヴェルサイユ体制下 の欧米諸国	4	①第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 ②西欧諸国における第一次世界大戦後の展開を多面的・多角的に考察し表現する。 ③国際協調をめぐる1920年代の前半と後半の変化を理解する。 ④イタリアにおけるファシズム体制成立の背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤東欧・バルカン半島の新興国が直面した困難と、それに対応すべく築かれた体制を理解する。 ⑥1920年代のソ連とアメリカのそれぞれの国内情勢を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
11		3 アジア・アフリカ地 域の民族運動	5	①第一次世界大戦が東アジアの政治・経済・文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②日本の勢力拡大に対する中国・朝鮮の人々の対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ③南京国民政府による中国統一達成までの経緯を理解する。 ④第一次世界大戦後のインド・東南アジア・アフリカにおける民族運動の経緯を理解する。 ⑤第一次世界大戦による西アジアの政治地図の変化を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	第17章 第二次世界 大戦と新し い国際秩序 の形成	1 世界恐慌とヴェルサ イユ体制の破壊	6	①世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ニューディール政策およびブロック経済の特徴や世界経済への影響を理解する。 ③ナチスドイツの体制が成立する経緯とその政策内容を理解する。 ④ソ連の計画経済が資本主義諸国に与えた影響を理解する。 ⑤日本と中国が全面戦争へいたった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ファシズム諸国の攻勢が国際政治に与えた影響を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		2 第二次世界大戦	4	①開戦直前における各国のナチスドイツへの対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ヨーロッパにおける第二次世界大戦の展開を理解する。 ③独ソ戦および太平洋戦争の開戦が第二次世界大戦にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④第二次世界大戦の終戦までの経緯を理解する。 ⑤第一次世界大戦と比較したうえで、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		定期考査	1			○	○	
12		3 新しい国際秩序の形 成	4	①戦後国際秩序がいかなる構想のもとで形成されたのかを理解する。 ②冷戦開始および東西ヨーロッパ分断の進展について、それぞれの経緯を理解する。 ③国民党が共産党に敗れた原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ④朝鮮戦争が東アジアの国際情勢に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤東南アジアおよび南アジアの独立の背景や経緯を理解する。 ⑥現代の中東問題の要因を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	第18章	1 冷戦の展開	4	①米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。	行動観察	○	○	○

	冷戦と第三世界の台頭			②冷戦の進展がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③西欧と日本の経済復興の背景をそれぞれ理解する。 ④スターリン死後のソ連と東欧における変化を多面的・多角的に考察し表現する。	プリント課題確認 振り返りシート	○	○	○
	2 第三世界の台頭とキューバ危機	4		①自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったのかを理解する。 ②アフリカなどの新興国が直面した困難の内容とその原因を理解する。 ③キューバ革命の背景および影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④国際社会が核兵器の制限に取り組むようになった経緯を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	3 冷戦体制の動揺	4		①国際情勢との関係をふまえたうえで、米ソ代理戦争としてのベトナム戦争の性格を理解する。 ②1960年代におけるアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ヨーロッパにおいて緊張緩和が進化した経緯を理解する。 ④ソ連のスターリン批判が中国へ与えた影響を理解する。 ⑤第三世界における開発独裁の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
1	第19章 冷戦の終結と今日の世界	1 産業構造の変容	2	①経済成長にともなう先進諸国の政策・社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ②1970年代初頭に世界経済がいかなる転換を迎えたのかを理解する。 ③オイルショックが各国の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④1960～1970年代の中東における変容の経緯を理解する。 ⑤1970～1980年代に進んだ開発途上国の工業化の経緯を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		2 冷戦の終結	3	①1970年代後半から80年代前半において米ソがそれぞれ追求した対外政策の内容を理解する。 ②ソ連で始まった改革と東欧革命との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東西対立の緩和が東アジアやアフリカなど諸地域にもたらした影響を理解する。 ④ゴルバチョフの改革が挫折した原因を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		3 今日の世界	3	①旧社会主義国で起こった民族運動や民族対立の特徴を理解する。 ②冷戦終結後の東アジア諸国の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③今日の東南アジア・南アジア諸国においていかなる政治的・経済的変化が生じているのかを理解する。 ④冷戦終結後のアフリカが有する課題と可能性を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤冷戦終結後も続く地域・民族紛争の背景や経緯を理解する。 ⑥経済における世界の一体化の経緯を理解する。 ⑦21世紀初めにアメリカ合衆国がおこなった戦争の背景や経緯を理解する。 ⑧今日の国際関係の特徴と、必要とされている協力の内容を多面的・多角的に考察し表現する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
2		4 現代文明の諸相	3	①20世紀以降の科学技術の革新が人々の生活に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②現代思想・文化における新しい潮流の内容を理解する。 ③両性の同権化の進展について、その経緯と残されている課題を理解する。	行動観察 プリント 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	地球世界の課題	地球世界の課題の探究	3		行動観察 プリント	○	○	○
			140					

<学習内容についての補足説明>

3年生の世界史探究は4単位ですが、3年生の後期中間考査までは「世界史探究」を週5単位で学び、その後、週5単位で世界史特論を学習します。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	○世界の歴史の変化に関わる諸事象の基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身に付けているか。また、学び方を身に付けているか。 ○世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。また得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身に付けているか。
思考・判断・表現	○世界の歴史の変化に関わる諸事象から課題を見出し、広い視野から多面的・多角的に考察しているか。 ○課題について国際社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。
主体的に学習に取り組む態度	○世界の歴史の変化に関わる諸事象の基本的な課題や事柄について関心を高め、主体的に追究しているか。 ○歴史的事象を総合的に考察しようとする態度を身に付けているか。 ○よりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付けているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況の評価します。
- ・定期考査以外に適宜、確認テストによって単元ごとの習得の状況を確認します。
- ・課題追究学習の際のレポート、学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- ・自己評価、振り返りシートを参考とします。

また、評定は、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

歴史など勉強しなくていい、そう思う人もいるでしょう。しかし、この数年、歴史的な出来事が多く起こっています。正に歴史の中を生きているという実感があります。時代の変化や大きな事件、災害、さまざまな課題に直面した時に、どのように考え、対処していくことが求められるでしょうか。その答えははっきりと示されてはいませんが、ヒントは歴史の中にあります。これまで多くの時代の変わり目がありました。先人たちの歴史の営みを学ぶことで、よりよい考えがみつかるともかもしれません。「私」自身や「私のまわり」の物事や現象について考えるとき、それらには歴史的な背景があり、そのようになっていることを意識するとよいのか。「私たち」は歴史の中の当事者です。当事者として、身近なところから学びきっかけを見出し、問いを設定して歴史を考えてみませんか？

科目	日本史特論			年次・コース	3年文系クラス
単位数	1	使用教科書	新詳日本史 (浜島書店)	副教材・問題集等	詳説日本史 (山川出版社) 要点整理ゼミナール日本史 (浜島書店) 山川一問一答日本史 (山川出版社) 大学入学共通テスト実戦問題集日本史 (駿台文庫) 共通テスト実力完成直前演習日本史 (ラーンズ)

1. 科目の目標

「日本史探究」で学んだ知識や探究・考察方法を用いて、自分独自の日本史像を新たに構築し、これまでの学びをより深く確かなものとする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	原始	原始の政治史・経済社会史・文化史	2	<ul style="list-style-type: none"> 原始に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート	○	○	○
5 6	古代	古代の政治史・経済社会史・文化史	8	<ul style="list-style-type: none"> 古代に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート 定期考査	○	○	○
7 8 9	中世	中世の政治史・経済社会史・文化史	8	<ul style="list-style-type: none"> 中世に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート 定期考査	○	○	○
10 11	近世	近世の政治史・経済社会史・文化史	8	<ul style="list-style-type: none"> 近世に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート 定期考査	○	○	○
12 1	近代	近代の政治史・経済社会史・文化史	7	<ul style="list-style-type: none"> 近代に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート	○	○	○
2	戦後	戦後の政治史・経済社会史・文化史	2	<ul style="list-style-type: none"> 戦後に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート	○	○	○
			35					

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	○日本の歴史の変化に関わる諸事象の基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身に付けているか。また、学び方を身に付けているか。
-------	--

	○日本の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。また得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身に付けているか。
思考・判断・表現	○日本の歴史の変化に関わる諸事象から課題を見出し、広い視野から多面的・多角的に考察しているか。 ○課題について国際社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。
主体的に学習に取り組む態度	○日本の歴史の変化に関わる諸事象の基本的な課題や事柄について関心を高め、主体的に追究しているか。 ○歴史的事象を総合的に考察しようとする態度を身に付けているか。 ○よりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付けているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- ・自己評価、振り返りシートを参考とします。

また、評定は、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

歴史など勉強しなくていい、そう思う人もいるでしょう。しかし、この数年、歴史的な出来事が多く起こっています。正に歴史の中を生きているという実感があります。時代の変化や大きな事件、災害、さまざまな課題に直面した時に、どのように考え、対処していくことが求められるのでしょうか。その答えははっきりと示されてはいませんが、ヒントは歴史の中にあります。これまで多くの時代の変わり目がありました。先人たちの歴史の営みを学ぶことで、よりよい考えがみつかるともかもしれません。「私」自身や「私のまわり」の物事や現象について考えるとき、それらには歴史的な背景があり、そのようになっていることを意識するとよいのか。「私たち」は歴史の中の当事者です。当事者として、身近なところから学ぶきっかけを見出し、問いを設定して歴史を考えてみませんか？

世界史特論

科目	世界史特論	年次	3	指導クラス	文系 (CD)	指導者名
単位数	1	使用教科書	ニューステージ 世界史詳覧 (浜島書店)		副教材・問題集等	ニューステージ世界史詳覧 (浜島書店) 要点整理ゼミナール世界史 (浜島書店) 世界史一問一答【完全版】 (東進ブックス) 大学入学共通テスト実戦問題集歴史総合世界史 (駿台文庫) 共通テスト実力完成直前演習歴史総合世界史 (ランズ)

1. 科目の目標

「世界史探究」で学んだ知識や探究・考察方法を用いて、自分独自の世界史像を新たに構築し、これまでの学びをより深く確かなものとする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 (技術) a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代や世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

3. 指導及び評価計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動 (指導内容) と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5 6	諸地域世界の形成	諸地域世界の形成期における、政治史・経済社会史・文化史	7	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の形成期に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート	○	○	○
						定期考査	1	
7 8 9	諸地域世界の交流	諸地域世界の交流期における、政治史・経済社会史・文化史	8	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の交流期に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート	○	○	○
						定期考査	1	
10 11	諸地域世界の統合と変容	諸地域世界の統合と変容期における、政治史・経済社会史・文化史	8	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の統合と変容期に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート	○	○	○
						定期考査	1	
12 1 2	地球世界の形成	地球世界の形成期における、政治史・経済社会史・文化史	9	<ul style="list-style-type: none"> 地球世界の形成期に関する資料からキーワードや数値を読み取り、主旨を把握する。 事象の因果関係や背景を関連付けて考察する。 複数の事象を比較して差異や共通点・特色をとらえる。 明確な根拠、与えられた条件との整合性など、論理的な整合性を判断する。 様々な側面や立場からとらえ、概念などを活用して考察する。 概念や理論に当てはまる具体的な出来事をとらえ、抽象化する。 	行動観察 プリント 振り返りシート	○	○	○
						定期考査	1	
			35					

<学習内容についての補足説明>

3年生の世界史特論は1単位ですが、3年生の後期中間考査までは「世界史探究」を週5単位で学び、その後、週5単位で世界史特論を学習します。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	○世界の歴史の変化に関わる諸事象の基本的な課題や事柄について理解し、その知識を身に付けているか。また、学び方を身に付けているか。 ○世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。また得られた資料や情報を効果的に活用し、学び方を身に付けているか。
思考・判断・表現	○世界の歴史の変化に関わる諸事象から課題を見出し、広い視野から多面的・多角的に考察しているか。 ○課題について国際社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断しているか。 ○課題についての考察や判断の過程や結果を様々な方法で適切に表現しているか。
主体的に学習に取り組む態度	○世界の歴史の変化に関わる諸事象の基本的な課題や事柄について関心を高め、主体的に追究しているか。 ○歴史的事象を総合的に考察しようとする態度を身に付けているか。 ○よりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付けているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- ・自己評価、振り返りシートを参考とします。

また、評定は、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

歴史など勉強しなくていい、そう思う人もいるでしょう。しかし、この数年、歴史的な出来事が多く起こっています。正に歴史の中を生きているという実感があります。時代の変化や大きな事件、災害、さまざまな課題に直面した時に、どのように考え、対処していくことが求められるのでしょうか。その答えははっきりと示されてはいませんが、ヒントは歴史の中にあります。これまで多くの時代の変わり目がありました。先人たちの歴史の営みを学ぶことで、よりよい考えがみつかるかもしれません。「私」自身や「私のまわり」の物事や現象について考えるとき、それらには歴史的な背景があり、そのようになっていることを意識するとよいのか。「私たち」は歴史の中の当事者です。当事者として、身近なところから学ぶきっかけを見出し、問いを設定して歴史を考えてみませんか？

倫 理

科 目	倫 理			年次・コース	3年文系
単 位 数	3	使用教科書	高等学校 新倫理 (清水書院)	副教材・問題集等	テオリア 最新倫理資料集(第一学習社) 新倫理ノート(啓隆社) 4ステージ演習ノート 倫理(数研出版)

1. 科目の目標

1. 人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせる。
2. 現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
3. 広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 ・諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索することができる。 ・現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしている。 ・多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。

3. 学習の計画

月	単元	指 導 項 目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	第1編 現代を生きる自己の課題	第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究	10	<ul style="list-style-type: none"> ・心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、個性やパーソナリティ、欲求や感情、認知、発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。 	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
	第2編 人間としての自覚	第1章 哲学の始源：ギリシア思想 1 神話から哲学へ 2 知と徳をめぐる問い 3 理想主義的なあり方 4 現実主義的なあり方 5 幸福をめぐる問い				<ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ソクラテス、プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解し、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察する。 	○	○
5		第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開 4 イスラーム教	12	<ul style="list-style-type: none"> ・世界宗教であるキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。 ・キリスト教の人間観や隣人愛、イスラーム教の倫理に関する諸概念の理解を通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。 	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教 1 バラモン教 2 仏陀の思想 3 仏教とその後の展開				<ul style="list-style-type: none"> ・世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・仏教の人間観や人生観、慈悲の教えを理解し、生の苦悩とその克服といった課題および人間相互のつながりについて自己の課題と重ね合わせて考察する。 ・孔子や孟子の言行や宋学思想、老荘思想の理解を通して、人間に対する見方や、望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 	○	○
6		定期考査	1			○	○	
		第4章 芸術と倫理	12	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画や造形芸術、伝統文化などの作品や資料を手掛かりに美の概念を自らの生き方と関わらせ、芸術が人生や社会に与える影響がどのようなものか、などについて思索を深める。 	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○

第3編 現代をか たちづく る倫理	第1章 近代の成立	14	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を根本から考えなおすための手掛かりとして、西洋の近代の特徴を理解する。 ・人間の尊厳を論じたルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、幸福、愛、徳に着目して、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察する。 ・自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察する。 	行動観察 ワークシート		○	○
	第2章 世界と人間をめぐる探究 1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界 4 近代科学の思考法 5 事実と経験の尊重 6 理性の光			課題確認 振り返りシート	○	○	○
7	7 社会契約説と啓蒙思想 8 人格の尊厳と自由 9 自己実現と自由 10 幸福と功利 11 創造的知性と幸福	14	<ul style="list-style-type: none"> ・民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。 ・民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して、善、正義、義務などに着目し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。 ・自己実現と幸福を論じた実存主義の思想を通して、幸福、愛、徳に着目し、人生への問いや人間の存在や価値について自己の課題と結び付けて考察する。 	行動観察 ワークシート		○	○
	12 資本主義社会への批判 13 人間損在の地平			課題確認 振り返りシート	○	○	○
8	14 世界の存在そのものへ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・世界を捉える知の在り方を論じた現象学を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察する。 				
9	15 公共性と正義 16 社会参加と他者への奉仕 17 理性主義への反省 18 言語論的転回 19 科学観の転換	12	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参加と奉仕を实践した先人たちの事例を通して、善、正義、義務に着目し、主体的に社会に参加することの大切さについて理解を深める。 ・近代の世界観や人間観を問い直す知見を備えた現代の諸思想を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について考察する。 	行動観察 ワークシート		○	○
	第4編 第1章 日本の風土と精神文化 1 風土と日本人の生活 2 日本における神の観念 3 神と仏の出会い			課題確認 振り返りシート	○	○	○
	定期考査	1				○	○
10	第4編 国際社会 に生きる 日本人と しての自 覚	13	<ul style="list-style-type: none"> ・外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。 ・外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。 ・古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解する。 	行動観察 ワークシート		○	○
	4 古代仏教の思想 5 鎌倉仏教の思想 6 儒教の伝来と朱子学 7 陽明学 8 古学 9 国学と日本文化			課題確認 振り返りシート	○	○	○
11	10 近世庶民の思想 11 近代的国家への道	12	<ul style="list-style-type: none"> ・近世庶民の思想や幕末の思想が、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。 ・西洋文化を摂取し、新しい文化や思想を形成した思想家たちを通して、現代を生きる日本人の思想形成にどのような影響を与えているかを理解する。 ・日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、民俗学の知見を手掛かりに、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。 	行動観察 ワークシート		○	○
	第2章 日本の近代化と人々の生き方 1 啓蒙思想家の活動 2 国家と個人の衝突 3 近代的自我の成立と個人主義 4 社会改革の思想 5 近代日本の哲学者 6 近代日本の思想傾向への反省 7 現代日本と私たちの課題			課題確認 振り返りシート	○	○	○
	定期考査	1				○	○
12 ・ 1 ・ 2	第5編 現代にお ける諸課 題の研究	15	<ul style="list-style-type: none"> ・先哲を含む他者との対話を通して、生命、自然、科学技術などと人間との関わりについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。 ・先哲を含む他者との対話を通して、福祉、文化と宗教、平和などについて倫理的課題を見だし、その解決に向けて倫理に関する概念や理論などを手掛かりとして多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述する。 	行動観察 ワークシート		○	○
	第1章 自然や科学技術をめぐる 諸課題 1 環境と倫理 2 生命と倫理 3 科学技術の発展とその課題			課題確認 振り返りシート	○	○	○
	第2章 社会や文化にかかわる諸 課題 1 文化や宗教の多様性と倫理 2 国際平和と人類の福祉			行動観察 ワークシート		○	○
	まとめと 演習			課題確認 振り返りシート		○	○
		105					

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	○現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し、選択・判断する手がかりとなる概念や理論について理解している。 ○諸資料から、現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめている。
思考・判断・表現	○他者と共によりよく生きる自己の確立について、より深く思索することができる。 ○現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け、他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 ○多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲での習得の状況の評価します。
- ・教科書の各節の「探究課題」についてのレポートやワークシートを評価のための資料とします。
- ・学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- ・自己評価、振り返りシートを参考とします。

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

この科目は、古今東西の幅広い知的蓄積から多様な視点（概念、理論）を学び、活用し、現代の倫理的諸課題を広く深く探究する活動を通して、人間としての在り方生き方についての思索を深めていく選択科目です。

世界各地で人々が激しくいがみ合ったり、分断されたりしている今こそ、この「倫理」は必要な科目なのではないでしょうか。一見すると小難しい事柄を学ぶ科目だと思われるかもしれませんが。確かに少々難解な思想なども扱うこともあります。しかし、「人間らしさとは?」「社会や他者とどう関わるのか?」といったことを考える手掛かりがここにあります。

肩の力を抜いて、人間について、自分について思索していきましょう。

科目	政治・経済		年次・コース		3年文系
単位数	3	使用教科書	政治・経済(東京書籍)	副教材・問題集等	政治・経済資料2026(東京法令出版) 要点マスター政治・経済演習ノート(東京書籍)

1. 科目の目標

- 現代社会の本質に関する概念や理論について理解するとともに、現代社会に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 現代社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に社会の在り方などについて構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- 現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや日本および国際社会において国家および社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
・現代社会の本質になる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	・現代社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想したり、社会の在り方などについて構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり、表現したりしている。	・よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5 6	第1編 現代日本の政治と経済 第1章 現代日本の政治 1節 民主政治の基本原則 2節 日本国憲法の基本原則	1 民主政治の成立 2 法と民主政治 3 基本的人権の確立 4 現代の民主政治 5 世界のおもな政治体制	10	・国内政治や国際政治の基本的事項や課題に対する関心を高め、民主政治の本質を探究する姿勢を身につける。 ・基本的人権、法の支配等、民主主義の原理や発展について理解する。 ・成年年齢が変更された背景について理解し、成年を迎えたらどのような点に留意する必要があるか考察する。	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		1 日本国憲法の制定と基本原則 2 基本的人権の保障 3 平和主義 定期考査	12 1	・日本国憲法の成立過程をふまえ、憲法の基本原則を理解する。 ・憲法の果たす役割を考え、基本原則と現実社会の諸課題について考察する。				
6 7 8	3節 日本の政治機構 4節 現代政治の特質と課題	1 国会と立法 2 内閣と行政 3 裁判所と司法 4 地方自治	12	・国会、内閣、裁判所、地方自治等日本の政治機構に関する理解を深め、またその課題についてどのように解決すべきか考察する。	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
1 戦後政治と政党 2 選挙と政治意識 3 世論と政治参加		7	・日本の政党政治や選挙制度の特質を理解するとともに、国民の政治参加の望ましいあり方について考察する。 ・選挙権年齢引き下げの背景や選挙権を行使する意味を理解し選挙権の行使に向けて、政党や候補者の主張をどのように検討すべきか考察する。	○				
9 10	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ 2節 複雑化する国際政治と日本	1 国際政治の特質 2 国際社会と国際法 3 国際連合の役割と課題	6	・国際社会や国際法に関する基本的な理解を深め、国連をはじめ国際機関の役割や課題について考察する。	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		1 戦後国際関係の展開と日本 2 冷戦後の国際関係と日本 3 地域主義の動き 4 軍縮の動向と課題 5 紛争・難民・テロリズム 6 国際社会における日本の役割 定期考査	11 1	・戦後の国際政治の動向を概観し、現代の地域紛争や核問題、難民問題、地球環境問題など現実の国際政治の問題について理解する。 ・世界で地域主義が進んでいる背景や、EUの成立過程および特徴について理解する。 ・グローバル化が進展するなか、これからの国際社会における日本の役割について考察し、自分の考えを適切に表現する。				
10 11	第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済	1 経済活動の意義 2 資本主義経済の発展と変容	3	・経済活動の基本原則について理解し、経済体制について考察する。 ・資本主義経済の成立過程やその変容、特徴を理解し、さらに現代経済の特質についても理解する。 ・今日の資本主義経済にはどのような課題があるか考察する。	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○

	2節 現代経済のしくみ 3節 日本経済の発展と現状 4節 福祉社会と日本経済の課題	1 経済主体と経済の循環	14	<ul style="list-style-type: none"> 市場メカニズムをはじめとする現代経済のしくみや理論について理解する。 現代の企業に求められているものは何か考察する。 現在の日本経済に関するさまざまな統計資料を読み取り、活用する。 金融や財政の理論と現在行われている政策について理解し、その課題を多面的・多角的に考察し、適切に表現する。 	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		2 生産のしくみと企業 3 市場経済の機能と限界 4 国民所得と経済成長 5 金融のしくみと機能 6 財政のしくみと機能						
12		1 戦後日本経済の発展	3	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長をもたらした要因について主要な指標やできごとを通じて理解し、バブル経済とその後の日本経済の課題について考察する。 		○	○	
		2 日本経済の現状						
		定期考査	1			○	○	
		1 公害と環境保全 2 消費者問題 3 農業・食料問題 4 中小企業の現状と課題 5 雇用と労働問題 6 社会保障と福祉	6	<ul style="list-style-type: none"> 日本経済が抱えるさまざまな課題について、現状やその原因・背景を理解し、望ましい解決策の方向性などにおいて多面的・多角的に考察し適切に表現する。 契約問題や自身の働き方について理解し、どのようなことができるか考察する。 	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
1 2	第2編 グローバル化する国際社会 第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済 2節 世界経済の現状と課題	1 貿易と国際収支 2 戦後国際経済体制の展開 3 発展途上国の経済	8	<ul style="list-style-type: none"> 貿易や国際収支のしくみを理解し、国家間の対立や協調の動きについて考察する。 為替レートがどのような要因によって変動するか考察する。 現代の国際通貨体制の変遷や、近年経済政策の分野で各国の政策協調が必要になっている理由について理解する。 地域経済統合やFTA・EPAが自由貿易の進展にどのような影響を与えるか考察する。 	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
		1 グローバル化する世界経済 2 地球環境問題 3 資源・エネルギー問題 4 人口・貧困・感染症						
	第3章 国際社会の諸課題	1 グローバル化にともなう社会変容 2 地球環境と資源・エネルギー問題 3 国際的な経済格差の是正 4 イノベーションの促進と成長市場 5 民族問題と紛争の解決 6 持続可能な社会の実現	6	<ul style="list-style-type: none"> 現代の日本社会、国際社会が抱える諸課題について、課題解決のために必要な資料を収集して活用し、多面的・多角的に考察する。 課題解決方法について立場の違いを踏まえて公正に判断し、適切に表現する。 SDGs達成に向けた取り組みの現状について理解し、自分たちに何ができるか考察し、表現する。 	行動観察 ワークシート 課題確認 振り返りシート	○	○	○
			105					

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手がかりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	○合意形成や社会参画に向け、国家および社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身につけた判断基準を根拠に構想したり、社会の在り方などについて構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断したり、表現したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	○よりよい社会の実現のために、国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ○知識および技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査では、ペーパーテストによって出題範囲における習得の状況の評価します。
- ・課題追究学習の際のレポートを評価のための資料とします。課題の設定・追究学習を行う際には、「探究のスキル」なども参考にしてください。
- ・学習活動の様子や発表、討論などの様子を評価のための資料とします。
- ・自己評価、振り返りシートを参考とします。

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

現代の政治、経済、社会、国際関係などをテーマに学ぶ学問です。

日頃から社会的関心を持ち、ニュース等に触れ、友人との話題にすることも勉強になります。1年時に学んだ「公共」を発展的に内容の深めた構成になっています。「日本史」、「世界史」の現代史との関連知識も役に立ちます。

楽しく勉強しましょう。

数学C (文系応用)

科目	数学C (文系応用)		年次・コース	3年文系
単位数	2	使用教科書 数研出版 クリアー数学演習 I・II・A・B・C 受験編	副教材・問題集等	ラーズ 共通テスト直前演習数学 I A II B C 数研出版 2027数学 I・A プレノート Full

1. 科目の目標

数と式、関数と方程式・不等式、式と証明、整数の性質、場合の数、確率、図形の性質について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を知り、事象の本質や他の事象との関係を知り、統一的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動 (指導内容) と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5	Warm Up	I 数と式 II 関数と方程式・不等式 III 式と証明 IV 整数の性質 V 場合の数、確率 VI 図形の性質	15	・ 数学 I A の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・ 問題を自分で説明することができる。 ・ 毎時間 2~3 題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。	週末課題 小テスト	○	○	○
6 7 8	Step Up	I 数と式 II 関数と方程式・不等式 III 式と証明 IV 整数の性質 V 場合の数、確率 VI 図形の性質	15	・ 数学 I A の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・ 問題を自分で説明することができる。 ・ 毎時間 2~3 題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。	週末課題 小テスト 定期考査	○	○	○
9 10 11	Clear	I 数と式 II 関数と方程式・不等式 III 式と証明 IV 整数の性質 V 場合の数、確率 VI 図形の性質	20	・ 数学 I A の知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・ 問題を自分で説明することができる。 ・ 毎時間 2~3 題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。	週末課題 小テスト 定期考査	○	○	○
12	共通テスト直前演習 I A II B C		7	・ マーク形式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○

1	2027数学 I ・ A プレノート Full		7	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。 ・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
2	入試問題		6	・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
			70					

<学習内容についての補足説明>

- ・「クリアー数学演習 I ・ II ・ A ・ B ・ C 受験編」を使って、数学 I A 全般の復習をした後、「共通テスト直前演習数学 I A II B C」「2027 数学 I ・ A プレノート Full」で共通テストに通用する実践力を身に付け、最後に入試問題プリントで2次試験に対応できる記述力を身に付けるように問題演習をします。
- ・単元テストや定期考査を実施し、学習到達度を確認します。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的スキルを応用した問題を解決する知識やスキルを身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、数学 I で学習した内容をもとに、事象を数学化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っていろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・スキルを獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間) ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。 ・春季休業明けの課題考査 ・単元の学習後に実施する単元テスト ・週末課題・長期休業に出題される課題 ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等) 	
また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します	

5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけて活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

数学C (文系標準)

科目	数学C (文系標準)			年次・コース	3年文系
単位数	2	使用教科書	ニュースタANDARD 数学演習 I A+ II BC受験編	副教材・問題集等	ランズ 共通テスト直前演習数学 I A II BC 数研出版 2027数学 I ・A プレノート Full

1. 科目の目標

数と式、関数と方程式・不等式、式と証明、整数の性質、場合の数、確率、図形の性質について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動 (指導内容) と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5	CHECK	<ul style="list-style-type: none"> 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 	15	<ul style="list-style-type: none"> 数学 I Aの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 問題を自分で説明することができる。 毎時間 2~3 題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。 	週末課題 小テスト	○	○	○
6 7 8	CHECK	<ul style="list-style-type: none"> 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 	15	<ul style="list-style-type: none"> 数学 I Aの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 問題を自分で説明することができる。 毎時間 2~3 題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。 	週末課題 小テスト 定期考査	○ ○	○ ○	○ ○
9 10 11	TRIAL	<ul style="list-style-type: none"> 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析 場合の数と確率 図形の性質 整数の性質 	20	<ul style="list-style-type: none"> 数学 I Aの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 問題を自分で説明することができる。 毎時間 2~3 題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。 	週末課題 小テスト 定期考査	○ ○	○ ○	○ ○
12	共通テスト 直前演習 I A II BC		7	<ul style="list-style-type: none"> マーク形式の総合的な問題を解くことができる。 	レポート	○	○	○
1	2027数学 I ・A プレ		7	<ul style="list-style-type: none"> マーク形式の総合的な問題を解くことができる。 記述式の総合的な問題を解くことができる。 	レポート	○	○	○

	ノート Full							
2	入試問題		6	・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
			70					

＜学習内容についての補足説明＞

- ・「ニュースタンド数学演習ⅠA+ⅡBC受験編」を使って、数学ⅠA全般の復習をした後、「共通テスト直前演習数学ⅠAⅡBC」「2027数学Ⅰ・AプレノートFull」で共通テストに通用する実践力を身に付け、最後に入試問題プリントで2次試験に対応できる記述力を身に付けるように問題演習をします。
- ・単元テストや定期考査を実施し、学習到達度を確認します。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的スキルを応用した問題を解決する知識やスキルを身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、数学Ⅰで学習した内容をもとに、事象を数学化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるときともに、考えた道筋を振り返っていろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・スキルを獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間) ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。 ・春季休業明けの課題考査 ・単元の学習後に実施する単元テスト ・週末課題・長期休業に出題される課題 ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等) 	
また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します	

5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけて活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

文系数学特講（文系応用）

科目	文系数学特講（文系応用）		年次・コース	3年文系
単位数	3	使用教科書	数研出版 クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編	副教材・問題集等 ラーンズ 共通テスト直前演習数学ⅠAⅡBC 数研出版 2027数学ⅡBCプレノートFull

1. 科目の目標

図形と式、三角比・三角関数、指数関数・対数関数、微分法・積分法、ベクトル、数列、データの分析について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5	Warm Up	Ⅶ 図形と式 Ⅷ 三角比・三角関数 Ⅸ 指数関数・対数関数 Ⅹ 微分法 ⅩⅠ 積分法 ⅩⅡ 数列 ⅩⅢ ベクトル ⅩⅣ 統計	18	・数学ⅡBの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・問題を自分で説明することができる。 ・毎時間2～3題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。	週末課題 小テスト	○	○	○
6 7 8	Step Up	Ⅶ 図形と式 Ⅷ 三角比・三角関数 Ⅸ 指数関数・対数関数 Ⅹ 微分法 ⅩⅠ 積分法 ⅩⅡ 数列 ⅩⅢ ベクトル ⅩⅣ 統計	24	・数学ⅡBの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・問題を自分で説明することができる。 ・毎時間2～3題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。	週末課題 小テスト 定期考査	○	○	○
9 10 11	Clear	Ⅶ 図形と式 Ⅷ 三角比・三角関数 Ⅸ 指数関数・対数関数 Ⅹ 微分法 ⅩⅠ 積分法 ⅩⅡ 数列 ⅩⅢ ベクトル ⅩⅣ 統計	33	・数学ⅡBの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 ・問題を自分で説明することができる。 ・毎時間2～3題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。	週末課題 小テスト 定期考査	○	○	○
12	共通テスト直前演習ⅠAⅡBC		12	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
1	2027数学ⅡBCプレノ		10	・マーク形式の総合的な問題を解くことができる。 ・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○

	一トFull							
2	入試問題集		8	・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
			105					

＜学習内容についての補足説明＞

- ・「クリアー数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C 受験編」を使って、数学ⅡB全般の復習をした後、「共通テスト直前演習数学ⅠAⅡBC」「2027 数学ⅡBC プレノート Full」で共通テストに通用する実践力を身に付け、最後に入試問題プリントで2次試験に対応できる記述力を身に付けるように問題演習をします。
- ・単元テストや定期考査を実施し、学習到達度を確認します。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的スキルを応用した問題を解決する知識やスキルを身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、数学Ⅰで学習した内容をもとに、事象を数学化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っていろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・スキルを獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間) ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。 ・春季休業明けの課題考査 ・単元の学習後に実施する単元テスト ・週末課題・長期休業に出題される課題 ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等) 	
また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します	

5. 特に強調しておきたい点

数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけて活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。

文系数学特講（文系標準）

科目	文系数学特講（文系標準）		年次・コース	3年文系
単位数	3	使用教科書	ニュースタダード 数学演習 I A+ II BC受験編	副教材・問題集等 ラーズ 共通テスト直前演習数学 I A II BC 数研出版 2027数学 II BCプレノートFull

1. 科目の目標

図形と式、三角比・三角関数、指数関数・対数関数、微分法・積分法、ベクトル、数列、データの分析について理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4 5	CHECK	<ul style="list-style-type: none"> 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数・対数関数 微分法・積分法 数列 統計的な推測 ベクトル 	18	<ul style="list-style-type: none"> 数学II Bの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 問題を自分で説明することができる。 毎時間2~3題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。 	週末課題 小テスト	○	○	○
6 7 8	CHECK	<ul style="list-style-type: none"> 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数・対数関数 微分法・積分法 数列 統計的な推測 ベクトル 	24	<ul style="list-style-type: none"> 数学II Bの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 問題を自分で説明することができる。 毎時間2~3題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。 	週末課題 小テスト 定期考査	○ ○	○ ○	○ ○
9 10 11	TRIAL	<ul style="list-style-type: none"> 式と証明 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数・対数関数 微分法・積分法 数列 統計的な推測 ベクトル 	33	<ul style="list-style-type: none"> 数学II Bの知識を用いて様々な応用問題を自分の力で解こうとする。 問題を自分で説明することができる。 毎時間2~3題の問題演習を行い、解法や考え方を完全に理解するまで粘り強く取り組む。 	週末課題 小テスト 定期考査	○ ○	○ ○	○ ○
12	共通テスト直前演習 I A II BC		12	<ul style="list-style-type: none"> マーク形式の総合的な問題を解くことができる。 	レポート	○	○	○
1	2027数学 II BC		10	<ul style="list-style-type: none"> マーク形式の総合的な問題を解くことができる。 記述式の総合的な問題を解くことができる。 	レポート	○	○	○

	プレノ ートFull							
2	入試問題		8	・記述式の総合的な問題を解くことができる。	レポート	○	○	○
		105						

＜学習内容についての補足説明＞

- ・「ニュースタンド数学演習 I A+ II BC 受験編」を使って、数学 I A 全般の復習をした後、「共通テスト直前演習数学 I A II BC」「2027 数学 II BC プレノート Full」で共通テストに通用する実践力を身に付け、最後に入試問題プリントで 2 次試験に対応できる記述力を身に付けるように問題演習をします。
- ・単元テストや定期考査を実施し、学習到達度を確認します。。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の 3 つの観点から行います。	
知識・技能	基本的な概念や原理・法則、用語・記号などを理解し、数学的な知識を身に付けている。 また、基本事項を理解したうえで、それらの知識や数学的スキルを応用した問題を解決する知識やスキルを身に付けている。 社会の事象などから設定した問題について、数学 I で学習した内容をもとに、事象を数学化したり数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりして問題を解決できる。
思考・判断・表現	主体的に問題を解決することを通して、文字に置き換えたり、帰納的に考えたりするなどの数学的な見方や考え方を身に付け、様々な事柄を数学的にとらえて論理的に考えるとともに、考えた道筋を振り返っていろいろな解法を考えたり、さらに問題を発展的に考えることができる。
主体的に学習に取り組む態度	主体的に問題を解決することを通して、数学的な見方や考え方の良さがわかり、それらを様々な事柄の考察に積極的に活用することができる。 問題解決に向け、知識・スキルを獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするなど、粘り強く取り組むことができる。 学習目標を設定し見通しを立てたうえで学習に取り組み、内容の途中や終了時に目標と現時点との差を確認し次につなげることができる。
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・年 3 回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間) ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。 ・春季休業明けの課題考査 ・単元の学習後に実施する単元テスト ・週末課題・長期休業に出題される課題 ・学習への参加状況(数学的活動への取り組み状況、授業中の発言の内容等) 	
また、1 年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します	

5. 特に強調しておきたい点

<p>数学を学習することにおいて留意することは、単に公式や定理を暗記して問題を解くだけではなく、数学の用語・記号・公式・定理などを理解して身につけて活用することです。そうでないと、忘れてしまった場合に公式や定理などを想起することができなくなります。また、数学を学習していく過程で、帰納的な考え方、演繹的な考え方など、数学特有の見方や考え方を学ぶこととなります。このような見方、考え方の良さを理解し、何が本質であるかを見抜くことが大切であり、この本質をつかむと、未知のいろいろな事柄にも見通しをもって対処することができるようになります。数学の学習を通して、見通しをもち筋道立てて考え、判断できる力を身につけるとともに、日常生活や社会生活において数学を積極的に活用することを期待します。</p>

化学基礎探究（3年）

科 目	化学基礎 探究	単位数	2 単位	年次・コース・組	3 年文系
使用教科書	改訂版 化学基礎（数研出版）				
副 教 材 等	大学入試共通テスト攻略問題集 ビーライン化学基礎（第一学習社） セミナー化学基礎（第一学習社） ニューステージ新化学図表（浜島書店）				

1 学習の到達目標

- ① 自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解すること。
- ② 実験や観察を通して、科学的な自然観を身に付けること。
- ③ 物質をよく知ることにより、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになること。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
化学に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けている。	化学や化学反応に対する疑問を持ち、その解決に向けて、科学的な知識をもとに考察できる。観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できる。また、これらの過程において、自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。	身近な化学現象に対して関心を持ち、知識・技能をもとにそれらの理解を深め、探求しようとしている。科学の発展に伴う現代の問題に対して、自らも社会の一員である自覚を持ち、自分の考えを表現し、議論しようという姿勢である。また、自らの取り組みを振り返り、評価して改善に努めている。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法	評価の観点		
					a	b	c
4月	第1章 物質の構成	1 純物質と混合物	・問題演習と解説 ・理解度を正しく把握し、教科書で振り返り、ノート作りなどで改善に努める。	行動観察 課題確認	○	○	○
		2 物質とその成分					
		3 物質の三態と熱運動					
5月	第2章 物質の構成粒子	1 原子とその構造	・問題演習と解説 ・理解度を正しく把握し、教科書で振り返り、ノート作りなどで改善に努める。	行動観察 課題確認	○	○	○
		2 イオン					
		3 周期表					
6月	前 期 中 間 考 査				○	○	○
	第3章 粒子の結合	1 イオン結合とイオンからなる物質	・問題演習と解説 ・理解度を正しく把握し、教科書で振り返り、ノート作りなどで改善に努める。	行動観察 課題確認	○	○	○
		2 共有結合と分子					
		3 配位結合					
		4 分子間にはたらく力					
		5 高分子化合物					

		6 共有結合の結晶 7 金属結合と金属結晶					
7	第2編 物質の変化				○	○	○
8 9 月	第1章 物質と 化学反応 式	1 原子量・分子量・式 量 2 物質 量	・問題演習と解説 ・理解度を正しく把握し、教科書で振り返り、ノ ート作りなどで改善に努める。	行動観察 課題確認			
	前 期 期 末 考 査				○	○	○
10 月	第2章 酸と塩基 の反応	3 溶液の濃度 4 化学反応式と物質 量 1 酸・塩基 2 水の電離と水溶液の pH	・問題演習と解説 ・理解度を正しく把握し、教科書で振り返り、ノ ート作りなどで改善に努める。	行動観察 課題確認	○	○	○
11 月	第3章 酸化還元 反応	3 中和反応と塩 4 中和滴定 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 金属の酸化還元反応 4 酸化還元反応の利 用	・問題演習と解説 ・理解度を正しく把握し、教科書で振り返り、ノ ート作りなどで改善に努める。	行動観察 課題確認	○	○	○
後 期 中 間 考 査					○	○	○
12 月	特編	全範囲	・問題演習と解説	行動観察 課題確認	○	○	○
1 月	特編	全範囲	・問題演習と解説	行動観察 課題確認	○	○	○

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

「化学」を履修していない生徒を対象とします。

4 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	○化学に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けているか。
思考・判断・表現	○化学や自然科学に対する疑問を持ち、その解決に向けて化学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。
主体的に学習に取り組む態度	○身近な化学反応に対して関心を持ち、探究しようとしているか。 ○科学倫理や環境問題など、科学の発展に伴う現代の問題に対して自分の考えをもっているか。 ○学習の過程で、自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。 ○到達度に応じた問題演習を行っているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・ 3回の定期考査(前期中間、前期期末、後期中間) ※各考査の出題範囲は各考査直前までの学習内容を基本とします。
- ・ 長期休暇明けの課題考査(夏)
- ・ 週末課題・長期休暇に出題される課題
- ・ 学習への参加状況(授業態度、実験への取り組み等)
- ・ 小テスト(または、単元テスト)
- ・ 考査に向けての問題演習

5 特に強調しておきたい点(留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。)

- 1 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち、その法則性について考える態度をもつこと。
- 2 疑問に思ったことを確かめてみようという態度をもつこと。
- 3 学んだことを正確に記録する方法と態度を身につけること。
- 4 暗記しなければならないことと、考えれば解ることを整理すること。

また、科学的事象に目を向け、大学で開催される各種実験実習講座に参加することも皆さんの大きな財産となります。是非積極的に参加し、科学の世界を体感してください。

生物基礎探究（3年）

科 目	生物基礎 探究	単位数	2 単 位	年次・コース・組	3年文系
使用教科書	改訂版 生物基礎(数研出版)				
副 教 材 等	大学入試共通テスト対策 チェックアンド演習 生物基礎 (数研出版) 改訂版フォトサイエンス生物図録 (数研出版)				

1 学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や能力を養う。

2 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
生物に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生物現象に対する疑問を持ち、その解決に向けて、生物学的な知識をもとに考察できる。観察・実験などを通して、得られた結果を分析して考察できる。 また、これらの過程において、自らの考えを、科学的根拠をもって表現し、議論することができる。	身近な生物や生物現象に対して関心を持ち、知識・技能をもとにそれらの理解を深め、探求しようとしている。生命倫理や環境問題など、科学の発展に伴う現代の問題に対して、自らも社会の一員である自覚を持ち、自分の考えを表現し、議論しようという姿勢である。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	予定時間	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4月	第1章 生物の特徴	8	1 生物の多様性と共通性 2 エネルギーと代謝 3 光合成と呼吸	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み			○
	第1章 生物の特徴					○	○	
5月	第2章 遺伝子と そのはたらき	8	1 遺伝情報とDNA 2 遺伝情報の複製と分配 3 遺伝情報の発現	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み 振り返りシート	○	○	○
6月	前期中間考査							
7月	第3章 生物の体内環境	5	1 体内での情報伝達と調節	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み	○	○	○
		8	2 体内環境の維持のしくみ	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み	○	○	○

				照する				
9月		5	3 免疫のはたらき	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み 振り返りシート	○	○	○
	前期末考査							
10月	第4章生物の多様性と生態系	5	1 植生と遷移	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み	○	○	○
11月		7	2 植生の分布とバイオーム 3 生態系と生物の多様性	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 実習レポート 課題の取り組み	○	○	○
		6	4 生態系のバランスと保全	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み 振り返りシート	○	○	○
後期中間考査								
12月より	特別編成授業	18	全範囲について授業を再編成して演習を行う	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み	○	○	○
		70						

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

4 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	演習などの問題への取り組みと理解、仮説や考察、器具の操作、報告書
思考・判断・表現	科学的な思考ができているか
主体的に学習に取り組む態度	実験・観察に対する姿勢、授業に対する姿勢、学習態度、物事への関心

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・ 3回の定期考査(前期中間・前期期末・後期中間) ・ 振り返りシート
- ・ 学習への参加状況 (授業態度等)

また、評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点 (留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。)

生物は、基本的な概念や原理・法則を幅広く理解した上で、それをもとに、実験結果・課題に対して考察していくことが大切です。科学的根拠を持ち、考察して解答する力を身に付けていきましょう。

地学基礎探究（3年）

科目	地学基礎探究		年次・コース	3年 文系
単位数	2	使用教科書 改訂版 高等学校 地学基礎(数研出版)	副教材・問題集等	新課程フォサイエンス地学図録(数研出版) 新課程大学入学共通テスト対策チェック&演習 地学基礎(数研出版)

1 科目の目標

地学的な事象・現象に対する探究力を高め、目的意識をもって観察・実験を行い、地学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を獲得する。

2 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
地学に関する基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などにおける操作や記録方法などの基本的な技能を身につけている。	地学や地学現象に対する疑問をもち、その解決に向けて地学的な知識をもとに考察できる。観察・実験を通して、得られた結果を分析して考察できる。また、これらの過程において自らの考えを科学的根拠をもって表現し、議論することができる。	身近な地学現象に対して関心をもち、知識・技能をもとにそれらの理解を深め、探求しようとしている。環境問題など科学の発展に伴う現代の問題に対して、自らも社会の一員である自覚をもち、自分の考えを表現し、議論しようとしている。また、自らの取り組みを振り返り、評価して改善に努めている。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価の場面・方法	評価の観点		
					a	b	c
4月	第1編 活動する地球	地球の形と大きさ	問題演習とその解説	行動観察			○
		地球の構造	教科書、図説類をその都度参照する	課題の取り組み	○	○	
5月		プレートテクトニクスと地殻変動	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 実習レポート		○	○
		プレート運動のしかた		課題の取り組み	○	○	
		地震 地震の分布 地震災害	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 実習レポート 課題の取り組み		○	○
		火山活動 火成岩 火山による恵みと災害	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み 振り返りシート		○	○
6月	前期中間考査				○	○	
6月	第2編 移り変わる地球	堆積作用と堆積岩	問題演習とその解説	行動観察			○
		地層の形成	教科書、図説類をその都度参照する	課題の取り組み	○	○	
		化石と地質時代の区分 古生物の変遷	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み			○

7月	第3編 大気と海洋	大気の構造	問題演習とその解説	行動観察			○
		地球全体の熱収支	教科書、図説類をその都度参照する	課題の取り組み	○	○	
9月		大気の大循環	問題演習とその解説	行動観察			○
		海水の運動	教科書、図説類をその都度参照する	課題の取り組み	○	○	
		日本の天気と気象災害		振り返りシート			○
前期末考査					○	○	
10月	第4編 地球の環境	気候の自然変動	問題演習とその解説	行動観察			○
		人間活動による環境変化 日本の自然環境	教科書、図説類をその都度参照する	課題の取り組み	○	○	
11月	第5編 太陽系と宇宙	太陽系の天体	問題演習とその解説	行動観察			○
		太陽 太陽系の誕生と現在の地球	教科書、図説類をその都度参照する	実習レポート 課題の取り組み		○	
		宇宙の誕生	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み 振り返りシート	○	○	○
後期中間考査					○	○	
12月より	特別編成授業	全範囲について授業を再編成して演習を行う	問題演習とその解説 教科書、図説類をその都度参照する	行動観察 課題の取り組み			○

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は次の3つの観点から行います。

知識・技能	○地学に関する基本的な概念や原理・法則などを正しく理解しているか。 ○観察・実験における操作や記録方法などの基本的な技能を身につけているか。
思考・判断・表現	○地学や地学現象に対する疑問をもち、その解決に向けて地学的な知識をもとに考察できるか。 ○観察・実験を通して、得られた結果を分析して考察できるか。 ○科学的に正確な情報を適切に選択できているか。 ○自らの考えを科学的根拠をもって表現し、議論することができるか。
主体的に学習に取り組む態度	○身近な地学現象に対して関心をもち、探究しようとしているか。 ○環境問題など科学の発展に伴う現代の問題に対して、自分の考えをもって考えるか。 ○学習の過程で自らの考えを表現し、議論しようという姿勢であるか。

このため、評価は具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査(前期中間・前期末・後期中間)
- ・長期休暇明けの課題考査2回(春・夏)
- ・学習への参加状況(授業態度)
- ・実習レポート(観察・実験・演習への取り組み)
- ・単元ごとの振り返りレポート

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む）

教科書と図表に戻って疑問点や曖昧な箇所をチェックして整理していくことが大切です。ともかく最初から最後まで教科書を重視し、そこに出てくる図表類をすべて理解して下さい。

地学基礎は理解する上で難しい箇所はありません。また、地形や地質、気象や天体、地震や火山噴火などすべて身の回りに存在する事項ばかりです。基本的な用語をしっかりと理解する事が肝心です。

ある程度の量の演習が出来ますが、併せて家で計画的な学習をして下さい。

体 育

科 目	体 育			年次・コース	3年
単 位 数	2	使用教科書	高等学校保健体育 (第一学習社)	副教材・問題集等	保健体育ノート (第一学習社)

1. 科目の目標

- 1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。
- 2) 生涯にわたって、運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- 3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって、運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。

3. 学習の計画

月	単元名	指 導 項 目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4月	体づくり運動	オリエンテーション 体ほぐしの運動 体力を高める運動	8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育を学ぶ意味を理解し、学習意欲を高める。 ・ 身体の様々な部位を動かすことで心地よさや楽しさを味わう。 ・ 仲間との活動を通して交流を深める。 ・ 自ら身体活動を創意工夫することにより、自己に適した実践力を身に付ける。 				
5・6・7月	体育理論 球技Ⅰ	(男子) テニス (女子) バスケットボール	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種目の特性を理解し個人やチームの能力を把握する。 ・ ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。 ・ 個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。 ・ ゲームの企画や運営・審判を行う。 	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
8・9月	体育理論 球技Ⅱ	(男子) バスケットボール (女子) ソフトボール	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種目の特性を理解し個人やチームの能力を把握する。 ・ ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。 ・ 個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。 ・ ゲームの企画や運営・審判を行う。 	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
10・11月	体育理論 球技Ⅲ	(男子) サッカー (女子) バレーボール	14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種目の特性を理解し個人やチームの能力を把握する。 ・ ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。 ・ 個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。 ・ ゲームの企画や運営・審判を行う。 	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
12月	体育理論 球技選択Ⅰ	サッカー バスケットボール バレーボール バドミントン 卓球	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種目の特性を理解し、個人やチームの能力を把握する。 ・ ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。 ・ 個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。 ・ ゲームの企画や運営・審判を行う。 	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
1・2月	球技選択Ⅱ	バスケットボール 卓球 バドミントン バレーボール	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種目の特性を理解し、個人やチームの能力を把握する。 ・ ゲームなどを通して、その種目の楽しさを味わいながら個人やチームの課題を設定し、その解決に向けての練習を工夫する。 ・ 個人やチームの能力に応じて作戦を立て、持っている技能を最大限生かしてゲームを行う。 ・ ゲームの企画や運営・審判を行う。 	行動観察 スキルテスト ゲーム評価 自己評価表	○ ○	○ ○ ○	○ ○
年間授業時間数			70					

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

*服装について

- ・指定された体操服上下及び体育館シューズを使用すること。
- ・髪の毛については、肩より長い場合はしばること。

*見学について

- ・体調不良などの理由で授業を見学する場合は、事前に授業担当者に申し出ること

*体育当番について

- ・事前に授業担当者へ授業内容の確認へ行くこと、全員への連絡を行うこと。
- ・列の前で整列・挨拶・準備体操の指示、授業後の片付けを行う。

*その他

- ・所定の場所で更衣をし、始業時間を厳守すること。
- ・器具や用具については、毎時間安全確認を行う。

4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	・運動の意義や必要性及び運動の特性を理解し、知識を身に付けている。 ・規則やルール及び審判法を理解して試合(ゲーム)に臨んでいる。 ・運動の特性及び事故やグループ(チーム)の能力に応じて技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに体力を高めるための運動を合理的に実践できる。また、課題の解決、記録の向上、チーム力の向上を目指し技能を高めている
思考・判断・表現	・運動の特性及び自己やグループ(チーム)の能力に応じて課題の解決を目指し、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで計画的に運動しようとしている。 ・厚生、協力、責任などの態度を身に付け、安全に配慮している。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・行動観察(授業態度)
- ・記録会
- ・スキルテスト、ゲーム評価
- ・自己評価表、相互評価表

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

体育の授業では誰もが運動の楽しさを味わうことができます。そのためには、自ら進んで運動しようという意欲がとても大切です。ただ、体を動かすだけでなく、自己や仲間と課題を見つけ、その解決に努力するとともに、運動の特性を理解して運動する習慣を身に付けてください。その積み重ねが、体力の向上と運動技能の向上につながり、一層の楽しさへと発展します。さらに、それが生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する礎となるのです。

教 科	芸術	単位数	2単位	年次・コース・組	3年文系 音楽選択者
使用教科書	MOUSA2				
副教材等	CD、DVDなど				

1 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 科目の特色（目標を実現するための重要点を含む。）

音楽Ⅰの学習を基礎にして、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばすことをねらいとしています。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月	歌唱	校歌	・愛唱歌を歌い、声を出していきながら、発声について理解し、豊かな表現力を身に付ける。 ・日本語、イタリア語、ドイツ語の歌に親しみ、原語で歌うとともに、それぞれの国の文化や風土等を比較し、表現を考える。	行動観察 学習プリント 歌唱テスト
5月		Nel cor piu non mi sento Der Lindenbaum		
6月	音楽史	西洋音楽史	・それぞれの時代に活躍した作曲家について興味を持ち、クラシック音楽の流れについて理解する。 ・それぞれの時代における音楽の特徴を感じ取る。	学習プリント 筆記テスト
7月	器楽	クラシックギター Can't Take My Eyes Off Of You	・ストローク奏法を工夫し、細かいリズムを演奏する。 ・歌いながらギターを演奏する。	行動観察 学習プリント
9月		クラシックギター 愛のロマンス Tears in Heaven		
10月	鑑賞	オペラやミュージカルに親しむ 『オペラ座の怪人』	・オペラとミュージカルの成り立ちや歴史について理解する。 ・物語と音楽と美術が融合すると、どのような効果があるのかを理解する。 ・作品の中の曲を実際に歌ってみる。	行動観察 学習プリント
11月	創作	モチーフを生かしてメロディーを作る	・作りたい曲のイメージに合った音階を選択する。(ハ長調・イ短調) ・2小節程度の短いモチーフ(動機)を作る。	行動観察 学習プリント 作品発表会

			<ul style="list-style-type: none"> ・作ったモチーフを生かして、8小節による一部形式のメロディーを作る。 ・作ったメロディーにコードを付ける。 	
12月		以降、特別編成授業		
1月				
2・3月				

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

4 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。
思考・判断	感性を豊かにし、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。
技能・表現	自己のイメージを持ち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。
知識・理解	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点 (留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。)

学習内容は、歌唱・器楽・鑑賞・創作のそれぞれの分野を絡めながら総合的に進めていきます。実技については、音楽的要素だけでなく、表現意欲も十分考慮して評価します。音楽Iで習得した内容を発展させていきます。後期は特別編成により授業は少ないですが、技術の向上を目指し、多くの曲を演奏できるように頑張ってください。

教科	芸術	単位数	3単位	年次・コース・組	3年文系 音楽選択者
使用準教科書	音楽通論（教育芸術社）				
副教材等	コールユーブンゲン				

1 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 科目の特色（目標を実現するための重要点を含む。）

音楽Ⅰ、音楽特講Ⅰの学習を基礎にして、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じた活動を展開し、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばすことをねらいとしています。

3 学習の計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元	学習内容	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
4	楽典の基礎を学び、 音楽的表現に結び つけよう	・音の高さ ・視唱の基礎を学ぶ	・音楽的基礎知識である楽譜の読み方を改めて正しく学び専門的な知識を身につける。 ・楽譜の読み方の学習としてコールユーブンゲンを使い併せて歌唱の実技も行う。	実技テスト 筆記テスト
5		・音の長さ ・視唱	・音楽的基礎知識である楽譜の読み方を改めて正しく学び専門的な知識を身につける。 ・楽譜の読み方の学習としてコールユーブンゲンを使い併せて歌唱の実技も行う。	実技テスト 筆記テスト
6		・テンポについて	・音楽的基礎知識である楽譜の読み方を改めて正しく学び専門的な知識を身につける。 ・楽譜の読み方の学習としてコンコーネを使い併せて歌唱の実技も行う。	実技テスト 筆記テスト
7	和声について学び 音楽の構造に目を 向けよう	・ハーモニーについて	・和声（ハーモニー）について学び、音楽の構造に目を向けていく。 ・併せて調音課題に取り組み和音の聴き取りを行えるようにする。	筆記テスト 聴音課題テスト
8				
9				
10	色々な作曲家の作品について学ぼう	・作曲家について ・音楽の形式について	・音楽の形式について実際の作品を鑑賞し、学ぶ。 また自分が取り組む作品を決め、その楽曲に対してのアナリゼを行い、演奏技術の向上につなげる。 ・専門として選択した楽器、または歌唱の題材に合わせた楽曲分析の仕方を学ぶ。	実技テスト 筆記テスト レポート課題
11				
12	大きな編成の音楽の構造を学ぼう	・スコアを読もう	・オーケストラ作品の総譜に触れ、スコアリーディングの仕方を学び、楽曲分析を行う。また実際の作品の鑑賞を通し、表現方法について学ぶ。 ・選択し楽器または歌唱の練習を続け、学んだ表現方法を取り入れた演奏ができるようにする。	実技テスト 筆記テスト レポート課題
1				
2				
3				

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の4つの観点から行います。

関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。
思考・判断	感性を豊かにし、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。
技能・表現	自己のイメージを持ち、創造的な表現をするための技能を身に付けている。
知識・理解	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5 特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

学習内容は、歌唱・器楽・鑑賞・創作のそれぞれの分野を絡めながら総合的に進めていきます。実技については、音楽的要素だけでなく、表現意欲も十分考慮して評価します。音楽Iで習得した内容を発展させていきます。特に将来音楽大学や教育学部、保育学科などに進学を考え、音楽と生涯にわたって関わる生徒の受講を対象としています。

4	デッサン① A表現(1) 絵画	対象物を構造的、現象的(光と影等)、関係的に捉えたり、理解したりする。	4	デッサンの基礎的知識、ものの捉え方、技術的方法論 ・対象を「みる」ことの考察。 ・対象物を現象的(陰影)に捉えることへの理解。 ・対象物の構造の理解。 ・対象物同士の関係性についての考察。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
5	デッサン② A表現(1) 絵画	対象物を構造的、関係的に捉え、また鉛筆の質や色を意識して描く。	8	「自画像」、「手」のデッサン(鉛筆デッサン) ・対象物の構造に着目して描く。 ・対象物同士の関係性に着目して描く。 ・鉛筆の色、質の幅を意識して描く。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
	鑑賞 (プロジェクター) B鑑賞	作品を鑑賞し、その創造的工夫(構造、色彩、素材など)を自作品に生かす。	8	作品鑑賞(古今東西の作家の作品をプロジェクターや画集などで鑑賞し、自らの表現に生かす) ・作者の表現における創造的工夫を、作品の構造面、色彩面、素材面など各構成要素から分析し見つけ出す。 ・日本美術と西洋美術の特性を見つけて出す。 ・見つけ出した工夫を自らの創造・創作に生かす。	・行動観察(発言) ・鑑賞ワークシート	○	○	○
6	彫塑 A表現(1) 彫刻	対象物を量感、動きに着目しながら多面的に捉える。	8	頭部の塑像制作(水粘土) ・全方位から頭部を捉える(エスキース)。 ・量感に着目する。 ・動きに着目する。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
7	デッサン (個人対応) A表現(1) 絵画	卓上モチーフにおける、素材の特性、また物同士の関係性、物を捉えるためのポイントの優先順を意識したデッサン。	4	卓上モチーフデッサン ・素材の質における特性、効果を理解している。 ・デッサン用具、支持体(鉛筆・画用紙など)の特性を理解している。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
	着彩 (個人対応) A表現(1) 絵画	油絵具やキャンバス、また色について理解し、それらを生かした着彩。	4	着彩(油彩) ・色の効果を理解し、工夫と創造的な表現をする。 ・色彩構成(パネル張り画用紙、水彩絵具)。 ・油絵具やキャンバスの特性を理解し、それを生かせるよう工夫を凝らす。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
8 9	デッサン (個人対応) A表現(1) 絵画	想定デッサンにおける描画素材の特性や効果、また物同士の関係性、物を捉えるためのポイントの優先順を意識したデッサン。	4	想定デッサン(鉛筆、画用紙、木炭紙) ・物の存在、空間、形など「ものの捉え方」「感じ方」から「画面の捉え方」を導き出す。 ・想定デッサンにおける、具体的な物同士の関係性と物を捉える優先順を理解し描く。 ・鉛筆、画用紙やキャンバスの特性を理解し、それを生かせるよう工夫を凝らす。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
	着彩 (個人対応) A表現(1) 絵画	油彩か色彩構成かを選び、それらの描画素材や支持体、また課題内容や資料、モチーフの特性や状態に着目しそれらを生かした制作。	4	油彩(油絵具、キャンバス) ・支持体(画用紙・木炭紙、キャンバス)や描画素材(油絵具、水彩絵具)の特性に着目しその特性を生かした表現。 色彩構成(パネル張り画用紙、水彩絵具) ・課題文、資料、モチーフの特性や状態に着目し、それを生かしたうえで創造的な画面構成や発想をする。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
10	デッサン (個人対応) A表現(1) 絵画	石膏、静物デッサンにおける描画素材の特性や効果、また物同士の関係性、物を捉えるためのポイントの優先順を意識したデッサン。	4	石膏、静物デッサン(木炭、木炭紙) ・物の存在、空間、形など「ものの捉え方」「感じ方」から「画面の捉え方」を導き出す。 ・卓上における、物同士の関係性と物を捉える優先順を理解し描く。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
	着彩 (個人対応) A表現(1) 絵画	油彩か色彩構成かを選び、それらの描画素材や支持体、また課題内容や資料、モチーフの特性や状態に着目しそれらを生かした制作。	4	油彩(油絵具、キャンバス) ・支持体(画用紙・木炭紙、キャンバス)や描画素材(油絵具、水彩絵具)の特性に着目しその特性を生かした表現。 色彩構成(パネル張り画用紙、水彩絵具) ・課題文、資料、モチーフの特性や状態に着目し、それを生かしたうえで創造的な画面構成や発想をする。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
11	デッサン (個人対応) A表現(1) 絵画	手渡しモチーフデッサンにおける描画素材の特性や効果、また物同士の関係性、物を捉えるためのポイントの優先順を意識したデッサン。	4	手渡しモチーフデッサン(鉛筆、画用紙・木炭紙) ・物の存在、空間、形など「ものの捉え方」「感じ方」から「画面の捉え方」を導き出す。 ・手渡しモチーフデッサンにおける、物同士の関係性と物を捉える優先順を理解し描く。 ・支持体(画用紙・木炭紙、キャンバス)や描画素材(油絵具、水彩絵具)の特性に着目しその特性を生かした表現。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
	着彩 (個人対応) A表現(1) 絵画	課題内容や資料、モチーフの特性や状態に着目しそれらを生かした制作。また科や作画の方向性によって変わってくる「完成度」について考慮した制作をする。	4	油彩(油絵具、キャンバス) ・課題文、資料、モチーフの特性や状態に着目し、それを生かした上で創造的な画面構成や発想をする。 ・それぞれの科、作画の方向性によって変わってくる「完成度」を認識し、画の中でそれらを表現する。	・行動観察 ・エスキース(目標設定) ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
12 1 2	特別編成授業 A表現(1) 絵画 A表現(2) デザイン	これまでの題材を基に、それぞれ課題を設定し取り組む。	10	これまで授業で取り組んだ題材を基に、個人の課題を設け取り組む ・個々の課題に主体的に取り組む。 ・個々の課題について、その達成のため工夫をしながら制作する。 ・主観と客観の両方の意識を働かせ、設定した課題を作品として具現化する。	・行動観察 ・エスキース ・作品 ・講評(相互講評)	○	○	○
			70					

4. 評価の観点・方法(及び年間の評定)

A 表現 1（絵画・彫刻）、2（デザイン）の 評価は、次の3つの観点から行います。

<p>知識・技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <科目><各題材><自分>の達成に向け、そのポイントを知り生かすことができる。 ・ 様々な物や事象の基本的な捉え方を理解し、それを表現する知識・技能を持っている。 ・ 作品を構成している主要な要素や考え方を知覚している。 ・ 制作する上で道具・材料の正しい使い方を知り、使いこなすことができる。 ・ 時代を超えて評価される作品に内在している法則性と、美の関係性について知識として理解し、それを各題材の目標と折り合いをつけながら表現する技能を持っている。 ・ 自分の感性に合う、ものの見方や表現方法、または材料を知り、制作・鑑賞に生かすことができる。
<p>思考・判断・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <科目><各題材><自分>の達成に向け、仲間との協働の中でそのきっかけやポイントを探し出すべく、適切な判断で行動している。 ・ 様々な物や事象の基本的な捉え方を理解し、それをどのように生かすかという創造的な思考、判断ができる。 ・ 作品を構成している主要な要素や考え方を知覚し、それらを制作する上での判断材料にしている。 ・ 制作する上で道具・材料の正しい使い方を知った上で、創造的に工夫し使いこなしている。 ・ 時代を超えて評価される作品に内在している法則性と、美の関係性について考え、判断しながらそれを表現している。 ・ 作品制作や作品鑑賞から思考的判断力で自分の感性に合う、ものの見方や表現方法、材料を見つけ出し、創造的に表現している。
<p>主体的に学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科目の目標、各題材の目標、自分の目標の達成に向け工夫を凝らしたり、仲間との協働の中でそのきっかけやポイントを探し出そうとしたりしている。 ・ 様々な物や事象の基本的な捉え方を理解しようとし、またそれをどのように生かすかという創造的な思考、判断をしようとしている。 ・ 作品を構成している主要な要素や考え方を知覚しようとし、またそれらを制作する上での判断材料にしようとしている。 ・ 制作する上で道具・材料の正しい使い方を知り、創造的に工夫し使いこなそうとしている。 ・ 時代を超えて評価される作品に内在している法則性と、美の関係性について考え、自ら判断しようとしている。また各題材の目標と折り合いをつけながら表現しようとしている。 ・ 自分の感性に合う、ものの見方や表現方法、または材料を見つけ出そうと受け身にならず、主体的に制作・鑑賞に取り組んでいる。

B 鑑賞の評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能（技術） a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を構成している、いくつかの主要な要素や考え方を知覚することができる。また、それらの視点をういた作品鑑賞をすることができる。 ・ 教科書や資料などにある作品を鑑賞し、日本美術と西洋美術の各特性を見つけ出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を構成している主要な要素や考え方を知覚し、そこで得たいくつかの視点をうい深く読み解くことができる。また、そのいくつかの視点をもって作品を多角的に捉えることができる。 ・ 分析し見つけた創造的工夫を、自らの創造・創作に生かすことができる。 ・ 対象の作品に対し、主観と客観のバランスを取りながら、両者の視点で鑑賞することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に作品への理解を深めようと、粘り強く鑑賞しようとしている。 ・ 感じたことを仲間に伝えようとしたり、より伝わるよう言葉を精選したりするなどの工夫をしようとしている。 ・ 鑑賞作品を主観的に捉えつつ、仲間の意見も尊重し、互いに認め合い、発見の場を作ろうとしている。

各題材における評価は上記を観点に、具体的には次のものを対象とします。

- ・ 「作品」 ・ 「行動観察」（主体的な授業参加を評価）
- ・ 「エスキース（構想、図案）」または「ワークシート」

また年間の評定は前期・後期を通じ、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

前半（6月）あたりまでは、全員同じ課題で基礎の定着を図る。
 後半（7月）からは、それぞれの課題においてその強化を図る。

科目	美術特講 A	年次	3	指導クラス	3年AB	指導者名	
単位数	3	使用教科書	現代アートの事典 美術手帳編集部（著） 美術出版社		副教材・問題集等	DVD, 画集等	

1. 科目の目標

- ・みる・描く・作るという美術の基礎技術を獲得し高める。
- ・各々の興味関心をベースとした創作・鑑賞活動を通して、自己の美的感性を認識し、創造的な表現力を獲得する。
- ・扱う「テーマ」「素材」「場」を積極的に生かそうとする、より多面的で社会的な表現態度を獲得する。
- ・地域の伝統文化に関わる活動に参加し、地域や日本の持つ伝統的な美的感性を感じ取り、自己の美的感性と照らし合わせながら創作活動につなげる態度を獲得する。

2. 評価の観点の趣旨

A 表現 1（絵画・彫刻）、2（デザイン）

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象の基本的な捉え方・考え方を理解し、それを表現する知識・技能を持っている。 ・創造物の構成要素を知覚し、創作する上での判断材料にしている。 ・各題材の目標を理解し、表現のスタイルや技法を考え、扱う素材や用具を選択することができる。 ・扱う素材や用具の特性を生かした創作を展開することができる。 ・みる・描く・作るなど美術の基礎基本の能力を高めながら表現力・技能の習得に努めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数ある過去の作品などの鑑賞から、自己の興味・関心・体質を発見し、分析することができる。 ・自己の興味・関心・体質を生かすため「何を表現すべきか」「どのように表現すべきか」「どういった気持ちで表現すべきか」表現スタイル、扱う素材、テーマ等をマッチングさせることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描画における方法論のメカニズムを理解したり、それを生かしたりして創作しようとしている。 ・創作・鑑賞活動から自己の美的感性を発見し、それを生かしたアイデアを創出しようとしている。 ・作品制作における構成要素を積極的にマッチングさせようと工夫している。

B 鑑賞

知識・技能（技術） a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> ・画集、教科書に掲載されている作品の作者、年代、作画スタイル等を調べ書き記すことができる。 ・自分の興味・関心・体質と似通った作品を見つけ出し、その場所や理由についての確に話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・画集、教科書に掲載されている作品を指定の視点で分類、統合することができる。 ・画集、教科書に掲載されている作品を独自の視点で分類、統合することができる。 ・画集、教科書に掲載されている作品の創作意図をイメージすることができる。 ・複数の視点で作品を鑑賞し、評価することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の興味・関心・体質を発見するため、画集や教科書から積極的に情報を得ようとしている。 ・発見した自己の興味・関心・体質を積極的に他者に伝えようとしている。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	ものを見る （内をみる） A 表現 1（絵画） B 鑑賞	表現的デッサン （画用紙・木炭紙・鉛筆・木炭等）	10	素材を選択し、各々のテーマに沿って表現する ・テーマを設定する。 ・用意された材料を使い、各々のテーマで作品を完成させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・作品（エスキース含む） 	○	○	○
5		鑑賞 （画集・教科書等）	10	画集、教科書等から自己の興味の対象を明らかにする。 ・画集、教科書に掲載されている作品を特定の視点で分類、統合する。 ・発見した自己の興味・体質について発見し言語化（文章にしたり他者に話したり）する。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・作品（エスキース含む） 	○	○	○
6	素材を生かす （外をみる） A 表現 1（絵画）	客観デッサン	20	対象物の構造、質感、周りとの関係性を客観的な意識で捉える。 ・「石膏像」を客観的に描く（鉛筆デッサン） ・対象物の構造を理解して描く。 ・質感、状態を意識して描く。 ・対象物の置かれた環境を描く。	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察 ・作品（エスキース含む） 	○	○	○

7		テーマと素材 (素材からテーマ を生成する)	20	扱う材料について知り、それを生かせる「テーマ」 を生成する。 ・扱う材料についての知識、また社会的なイメージ などを知る姿勢を身につける。 ・扱う材料を生かすことを前提に、テーマを引 き出す。	・行動観察 ・作品(エスキース 含む)	○	○	○
8								
9								
10		テーマと素材 (テーマから素材 を生成する)	13	制作テーマ(他)や、こだわりとマッチした「材 料」を見つける。 ・扱う材料についての知識、また社会的なイメージ などを知る姿勢を身につける。 ・扱うテーマを表現することを前提に、適切な 材料見つけ出す。	・行動観察 ・作品(エスキース 含む)	○	○	○
11								
	興味・材料・場 (内と外をみる) A表現1(絵画)	ランドアート	15	制作テーマ(自)にマッチした「場」を探す ・ランドアート・サイトスペシフィックの 在り方や考え方を学ぶ。 ・材料・場を生かした表現をする。	・行動観察 ・作品(エスキース 含む) ・レポート	○	○	○
12	表現 A表現1(絵画)	表現絵画	15	各々のテーマで自由に作品を創作する。 ・授業で取り組んだ内容を踏まえ、各々のテーマ を生成し表現する。 ・各々のテーマに主体的に取り組む。	・行動観察 ・作品(エスキース 含む) ・レポート	○	○	○
1	飾り物 A表現2 (デザイン) B鑑賞	伝統文化	2	地域の伝統文化を理解し表現する。 ・「飾り物」の考え方・面白さを学び、扱う材料の 意味も踏まえた表現に取り組む。 ・他者の作品に対し興味関心・材料・場・意味等、 複数の観点から評価する。	・行動観察 ・作品(エスキース 含む)	○	○	○
2								
			105					

4. 評価の観点・方法(及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・描画における方法論のメカニズムを理解し、それに基づいて物を観察したり、描いたり、造形したりすることができるか。 ・素材や場を生かす表現のメカニズムを理解し、それに基づいて創作することができるか。 ・地域の伝統文化を知り、その面白さのメカニズムを理解し表現することができるか。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をベースとした創作活動を通して、自己の美的感性を認識できるか。 ・創作・鑑賞活動から自己の美的感性を発見し、それを生かしたアイデアを創出できるか。 ・作品だけでなく扱う素材や場、またそれらの意味を取り込んだアイデアを創出できるか。 ・扱う素材や場を生かすことを前提としたテーマを創出することができるか。 ・創作しながら出てきた状態・状況を生かすことができるか。 ・作品制作における構成要素をマッチングさせることができる
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・描画における方法論のメカニズムを理解したり、それを生かしたりして創作しようとしているか。 ・創作・鑑賞活動から自己の美的感性を発見し、それを生かしたアイデアを創出しようとしているか。 ・作品制作における構成要素を積極的にマッチングさせようと工夫しているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・各題材での主体的な授業参加と、題材の目標達成に向けた創意工夫
- ・各題材での提出「作品」
- ・各題材での提出「エスキース(アイデア、図案、構図)」

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

- ・個々の興味関心をベースとした創作活動を行います。また、他者や場(作品を構成している要素)とのつながりに意識を向けた作品制作・作品鑑賞活動を展開していきます。
 - ・既成概念を見直したり、過去の文化遺産から学んだりしながら「自ら気づきを促していく姿勢」を身につけ、ひいては作品制作における社会的な視座の獲得や、より自立した作品の成立を狙っています。
- ※受講においては、美術系全般への進学を考えている生徒を対象としています。

英語コミュニケーションⅢ

科目	英語コミュニケーションⅢ		年次・コース	3年次
単位数	4	使用教科書	Heartening English Communication Ⅲ (桐原書店)	
副教材・問題集等	Change the World Standard (いいずな書店)、 共通テスト対策実力養成重要問題集英語リスニング (進研学参)、システム英単語 (駿台文庫)			

1. 科目の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

(1) 聞くこと

- ア 日常的话题について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(2) 読むこと

- ア 日常的话题について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。

(3) 話すこと [やり取り]

- ア 日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

- ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。

(5) 書くこと

- ア 日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。
- イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるか。	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり伝えたりしているか。	英語の背景にある文化を理解し、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとしているか。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動 (指導内容) と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4		授業について	1	学習の意味を理解し、学習意欲を高める。				

月	Lesson 1	What Makes Up Your Identity?	4	・アイデンティティについて扱い、個人の価値を尊重し、自主及び自律の精神を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
	Lesson 2	Predicting Future Technology	4	・未来予想について扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。				
	Lesson 3	The Science of Sleep	4	・睡眠について扱い、豊かな情操を培うとともに、健やかな身体を養うことにつなげる。				
	Lesson 4	Diversity and Inclusion	4	・多様性について扱い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う。				
5月	Lesson 5	Protein Crisis	4	・将来のタンパク源について扱い、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
	Lesson 6	Different Types of Happiness	4	・幸福論について扱い、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度などを養う。				
	Lesson 7	Pros and Cons of Utilizing AI	4	・AIについて扱い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う。				
	Lesson 8	Kintsugi: The Art of Embracing the Imperfect	4	・伝統工芸品について扱い、文化を尊重し、それを育んできた環境を大切にすることを養う。				
6月	前期中間考査・パフォーマンステスト		2			○	○	○
	Lesson 9	Getting Your Message Across	4	・人前での話し方について扱い、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う。	活動の観察 小テスト ワークシート 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
	Lesson 10	Medical Ethics During a Pandemic	4	・医療倫理について扱い、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画する態度を養う。				
Change the World	Unit 1 Unit 2	4 4	・歴史 ・社会問題					
7月	Change the World	Unit 3	4	・環境	活動の観察 小テスト ワークブック 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
		Unit 4	4	・言語				
		Unit 5	4	・動物				
		Unit 6	4	・社会				
8・9月	Change the World	Unit 7	4	・健康	活動の観察 小テスト ワークブック 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
		Unit 8	4	・健康				
		Unit 9	4	・健康				
		Unit 10	4	・風俗				
前期期末考査・パフォーマンステスト			2			○	○	○
10月	Change the World	Unit 11	4	・風俗	活動の観察 小テスト ワークブック 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
		Unit 12	4	・文化				
		Unit 13	4	・風俗				
		Unit 14	4	・環境				
11月	Change the World	Unit 15	3	・社会問題	活動の観察 小テスト ワークブック 課題・レポート 振り返りシート	○	○	○
		Unit 16	3	・教育				
		Unit 17	3	・産業				
		Unit 18	3	・社会				
			3	・家族				
			3	・歴史				
後期中間考査・パフォーマンステスト			2			○	○	○
12月～	*後期中間考査以降は特編授業のため開講されない。							

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- ・授業は基本的には英語で行われます。
- ・ペアで自分の考えや意見を伝え合う活動が定期的に行われます。

4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できるか。
思考・判断・表現	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現したり伝えたりしているか。
主体的に学習に取り組む態度	英語の背景にある文化を理解し、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとしているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査
- ・単語を中心とした小テスト
- ・発表活動（ディスカッション、プレゼンテーション）では、①話し方（アイコンタクト・声の大きさ）、②内容（トピックとの関連性）、③英語（正しい発音と抑揚・語彙の使用状況）を評価します。
- ・ワークシート
- ・学習活動への参加の状況（ペアワーク、グループワークの取組等）
- ・振り返りシート（自己評価）

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

英文を読んだり、書いたりする際に、今まで学習した語彙、文法、構文の知識が非常に重要になってきます。定期的に復習し、適切に使いこなせるようにしていきましょう。また、リスニングの力は一朝一夕では身につけません。日々、短時間でも英語を聞く時間を設けていくようにしましょう。

速く、正確に英文の内容を読み取るためにも、様々な分野の英文に慣れておく必要があります。授業で扱う英文の理解に努め、どのようなジャンルにも対応できるよう、背景知識などを蓄えていくようにしましょう。

科目	論理・表現Ⅲ		年次・コース	3年次・文系
単位数	3	使用教科書	CROWN Logic and Expression Ⅲ (三省堂)	
副教材・問題集等	新・英語の構文150 解釈&表現 活用ワークブック (美誠社)		UPGRADE 英文法・語法問題 (数研出版)	
	新・英語の構文150 (美誠社)		桐原AIエッセイライティングLite10回 (桐原書店)	

1. 科目の目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

(1) 話すこと [やり取り]

日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと [発表]

日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら詳しく話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

日常的な話題や社会的な話題について、支援をほとんど活用しなくても、複数の資料を活用しながら、多様な語句や文を用いて、情報や考えなどを論理の展開や構成を工夫しながら複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解しているか。	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えているか。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4月		授業について	1	学習の意味を理解し、学習意欲を高める。				
	Lesson 1	Global Language	8	友人からのメールに自分の考えを述べる 時制・助動詞・受動態/賛成・反対の表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	Lesson 2	Millennials' Consumption Trends	8	新聞に掲載された意見に対して自分の主張を理由と共に述べる。 不定詞・動名詞・分詞/例証の表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
5月	Lesson 3	Space Odyssey	8	宇宙旅行は必要であるという意見について資料を読み取り、自分の意見を書く。 仮定法・接続詞/時間的順序を表す表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	前期中間考査・パフォーマンステスト		3			○	○	○
6月	Lesson 4	Art or Graffiti?	8	クローン文化財の技術とその使用目的に関する説明文を読んで、感じたことをまとめる。 比較・関係詞/確信/提案・勧誘/伝聞の表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	7月	Lesson 5	Media and Information Literacy	8	メディアリテラシーとは何であるか、なぜ重要であるか、意見交換サイトに寄せられた以下の意見を読んで、自分の考えをまとめる。 疑問詞/忠告・義務/必要/譲歩の表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○
8・9月		Lesson 6	Are You a Great Creative Thinker?	10	二人の起業家のエピソードを読み、相違点をまとめて発表する。 否定/比較・対照を表す表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○ ○ ○	○ ○ ○
	前期期末考査・パフォーマンステスト		3			○	○	○

10月	Lesson 7	Green Wisdom	9	エコリズムについて、メリットとデメリットのどちらが多いか、資料を読み取り自分の意見をまとめる。 名詞・冠詞／統計資料を説明する表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○	○	○
11月	Lesson8	What Is Happiness?	8	SDGsを達成するために解決すべき課題の中で、優先すべき目標はどんなことか自分の意見をまとめる。 特殊構文／因果関係を表す表現	活動の観察 ワークシート エッセイライティング	○	○	○
		後期中間考査・パフォーマンステスト	3			○	○	○
後期中間考査以降は特別編成授業のため開講されない。								

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- ・授業は基本的には英語で行われます。
- ・ペアで自分の考えや意見を伝え合う活動が定期的に行われます。

4. 評価の観点・方法 (及び年間の評定)

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解しているか。
思考・判断・表現	英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に伝えているか。
主体的に学習に取り組む態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとしているか。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年3回の定期考査、パフォーマンステスト
- ・単元ごとの確認小テスト
- ・発表〔スピーチ、ディベート、ディスカッション、プレゼンテーション〕では、次の観点で評価します。
 - ①アイコンタクト、②声の大きさ、③正しい発音と抑揚、④語彙の使用状況
- ・ワークシート
- ・エッセイライティング (①分量、②内容 (論理性、具体性)、③文法)
- ・学習活動への参加の状況 (ペアワーク、グループワークの取り組み等)

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

英語は、毎日学習することが大切です。この計画を参考にして、進んで学習する習慣を身に付けましょう。授業は原則として英語で行われます。知らない単語や表現が聞こえてきても、ビジュアルエイドやジェスチャーなどを手がかりにして理解に努めましょう。1年間、英語漬けになることで、リスニング力ばかりでなく、語彙力や英語で表現する能力を確実に伸ばすことができます。ただ、どうしても推測できない単語や表現は辞書を使って確認する作業を怠らないようにしましょう。英語を上達させるには、学んだ表現を実際にできるだけ多く使ってみることが必要です。学習した表現はスピーキングやライティング活動で積極的に用いるようにしましょう。

グローバル

教科	外国語科	科目	グローバル	教科書	Impact ISSUES 1 (Pearson)			
年次	3年文系	単位	3	副教材				
科目 目標	現代社会が抱える問題や価値観の違いについて学び、英語を使って自分の考え、意見を伝える力を身につけるとともに、意見交流などとおして、多様な考え方を受け入れられる素養を培う。							
評価の 観点	知識・技能 a		思考・判断・表現 b		主体的に学習に取り組む態度 c			
	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その知識を実際のコミュニケーションにおいて適切に活用できているか。		現代社会が抱える問題や価値観の違いを読んだり聴いたりして、情報や考えなどを適切に整理したり、自分の意見を論理的に表現しているか。		現代社会が抱える問題や価値観の違いに関する自分の考えを主体的に相手に伝えようとしているか。			
月	単 元 名	時 数	題材内容 指導項目	主な言語活動（指導内容）及び到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	1 The Guy with Green Hair 2 The Shoplifter	9	内容把握・意見交流 ・ A student with an unusual appearance is interviewed for a job. ・ A woman steals an item from a jewelry store and her friend confronts her.	見た目判断することの是非、真の友人関係とは何かについて考え、理由とともに自分の意見を表現する。	活動観察 ディスカッション プレゼンテーション ワークシート	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	3 I'm not addicted! 4 Social Media Star 5 Who pays?	9	内容把握・意見交流 ・ A son and his mother discuss the son's constant use of technology. ・ A woman wants to drop out of university to become a social media star. ・ A man is confused about who should pay on dates.	スマートフォンの功罪、理想と現実、性別に関わる固定観念について考え、理由とともに自分の意見を表現する。	活動観察 ディスカッション プレゼンテーション ワークシート	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
6	パフォーマンステスト 前期中間考査	2		【知技・思判表・主】	活動観察 ペーパーテスト	○	○	○
	6 Saying "I love you." 7 Family Values 8 Cyber Love	9	内容把握・意見交流 ・ A Japanese man and a Peruvian woman talk about different ways of showing love. ・ A couple disagrees about how best to raise their daughter. ・ A man and a woman meet face-to-face for the first time and discover a problem.	文化による愛情表現の違い、子育てに関する考え方の違い、ネット上での人間関係の構築の問題点について考え、理由とともに自分の意見を表現する。	活動観察 ディスカッション プレゼンテーション ワークシート	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	9 A Visit to Grandma 10 Fan Worship 11 Pet Peeve	9	内容把握・意見交流 ・ A young woman becomes aware of lifestyle differences during a visit to her grandmother. ・ A young woman becomes obsessed about being a fan. ・ Two friends complain about the rude behavior of people in modern society.	よりよい人生の送り方、物事に熱中しすぎることの是非について考え、理由とともに自分の意見を表現する。 自分にとって気に障るマナーについて発表する。	活動観察 ディスカッション プレゼンテーション ワークシート	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
8 9	12 Close your eyes and see 13 Protecting our Environment 14 Get a job!	15	内容把握・意見交流 ・ A blind man complains about how impolite people are toward him. ・ A mother and daughter discuss environmental issues. ・ A mother encourages her son to find a stable job.	障がい者の雇用、環境問題、職業選択において重視しているものについて考え、説得力のある意見を構築する。	活動観察 ディスカッション プレゼンテーション ワークシート	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	パフォーマンステスト 前期期末考査	2		【知技・思判表・主】	活動観察 ペーパーテスト	○	○	○
10	15 To tell or not to tell 16 Flight 77 17 To have or not to have	9	内容把握・意見交流 ・ A man discovers a coworker is not telling the truth. ・ A man has a premonition about getting on a plane. ・ A father and his son discuss the benefits and	常に真実を語ることがよい事なのか、子どもを持つことの是非について考え、論理的に自分の意見を表現する。 予感的中した経験について共有する。	活動観察 ディスカッション プレゼンテーション ワークシート	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○

			drawbacks of having children.					
11	18 Are humans smart? 19 Cloning Cyndi 20 Why learn English?	9	内容把握・意見交流 ・ Two aliens discuss their recent visit to a strange planet called Earth. ・ A friend asks for advice about cloning his pet. ・ Two students discuss whether learning English is important for everyone.	地球の将来、クローンの是非、英語を学ぶ意義について考え、自分の意見を発表する。	活動観察 ディスカッション プレゼンテーション ワークシート	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
	パフォーマンステスト 後期中間考査	2		【知技・思判表・主】	活動観察 ペーパーテスト	○	○	○
12	特別編成授業	10		既習事項のまとめをする。	活動観察	○	○	○
1	特別編成授業	10						
2	特別編成授業	10						
	年間授業時間数	105						

<学習内容についての補足説明> (授業の形態等の詳細な説明も含む。)

- ・ 選択教科で少人数なので、いろいろな意見の交換や発表等がしやすい授業です。
- ・ 読みの練習にも重点を置き、さまざまな場面での表現を使えるように、表現活動の中に取り入れていきます。
- ・ 英字新聞も教材として用い、社会問題等にも目を向けていきます。

5 特に強調しておきたい点 (留意すべき点・担当者からのメッセージも含む。)

教材で扱われている場面に応じた表現を理解し、ペアワークなどの活動の中で身につけていけるようにするだけでなく、広く知識を増やしていけるように新聞なども使って積極的に授業を進めていきます。

科目	フードデザイン		年次・コース	3年・文系クラス
単位数	2	使用教科書	フードデザイン (Food Changes LIFE) (教育図書)	副教材・問題集等
				フードデザインワークノート (教育図書)

1. 科目の目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活に関する諸問題に関心を持ち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。

3. 学習の計画

	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動（指導内容）と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	第4章 調理してみよう	◎なぜ調理するのか ◎調理操作と調理器具 <調理実習>和風料理	6	<ul style="list-style-type: none"> 安全性、栄養性、おいしさなどの面から、調理の目的を理解している。 非加熱調理と加熱操作の種類とそれぞれの特徴を理解している。 調理器具の特徴と仕組みを理解し、正しく使用している。 料理の出来栄を考えながら、さまざまな調理操作に積極的に取り組もうとしている。 	ワークノート ワークシート 行動観察 調理実習記録	○	○	○
5	第1章 健康と食生活 実践編	◎食事の意義と役割 ◎食を取り巻く現状 <調理実習>洋風料理	6	<ul style="list-style-type: none"> 食事には、どのような意義と役割があるか理解している。 日本の食生活の現状と課題について考えることができる。 栄養素の摂取量や比率は時代によって変化していることを理解し、その影響について考えることができる。 	ワークノート ワークシート 行動観察 調理実習記録	○	○	○
6		◎栄養素と消化・吸収 ◎各栄養素のはたらき ◎食品とその特徴 教科横断的学習 (保健体育) <調理実習>中国料理	8	<ul style="list-style-type: none"> 消化・吸収された栄養素から私たちの身体が形成されていることを理解している。 五大栄養素の種類とはたらきについて理解している。 さまざまな食品について、それぞれの特徴とその調理性、加工について理解している。 	ワークノート ワークシート 行動観察 調理実習記録 【前期中間考査】	○	○	○

7・8	<p>◎何をどれだけ食べる？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">教科横断的学習 (保健体育)</div> <p>実践編 <調理実習>和風料理</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを把握し、自分に必要な栄養素や食品について考えることができる。 年齢や性別、運動量などによって、必要な栄養素に違いがあることを知り、ライフステージごとの特徴を理解している。 <p>・調理の目的に合わせて適切な調理器具、調理方法を選択することができる。</p>	<p>ワークノート ワークシート</p> <p>行動観察 調理実習記録</p>	○	○	○
9	<p>実践編 第3章 食品の選択と取り扱い</p> <p>◎献立を立ててみよう</p> <p>◎食品選択のコツ</p> <p>◎食品の衛生と安全</p> <p>◎食の安全を考えて選ばう</p> <p>実践編 <調理実習>多国籍料理</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">教科横断的学習 (地歴公民)</div>	8	<ul style="list-style-type: none"> テーマに応じた献立を具体的に考えることができる。 正しく情報を読み取り、食品選択に役立てることができる。 食物アレルギーについて理解している。 食中毒の種類と特徴について知り、適切な予防ができる。 食に関する技術や農薬、食品添加物について理解し、食の安全を確保するために自ら考え行動することができる。 <p>・調理の目的に合わせて適切な調理器具、調理方法を選択することができる。</p>	<p>献立シート</p> <p>ワークノート ワークシート</p> <p>行動観察 調理実習記録</p>	○	○	○
10	<p>第5章 各国料理とコーディネート</p> <p>◎料理の様式</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">教科横断的学習 (地歴公民)</div> <p>◎テーブルコーディネート</p> <p><調理実習>洋風料理 <調理実習>中国料理</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> 各様式別料理の特徴を理解する。 各様式の献立構成、食卓構成、作法を理解する。 各様式のマナーやサービスについて理解している。 テーブルコーディネートの基本をふまえ、食事のテーマに合った食卓を整えることができる。 <p>・調理の目的に合わせて適切な調理器具、調理方法を選択することができる。</p>	<p>ワークノート ワークシート</p> <p>行動観察、作品</p> <p>行動観察 調理実習記録</p>	○	○	○
11	<p>第6章 食育と食育推進活動</p> <p>◎食育推進の取り組み</p> <p>◎食文化を見つめる</p> <p>◎食と環境について考えよう</p> <p><調理実習> SDGSを意識した調理</p> <p>◎災害時の食</p> <p><調理実習>災害時の調理</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> 健全な食生活を実践するために食育が重要であることを理解している。 家庭、学校、地域、企業で行われている食育の取り組みを知り、主体的に活動しようとする態度を身に付けている。 行事食や郷土料理について知り、食文化継承の担い手としての意識を持っている。 環境に配慮した食材の選択について考えることができる。 SDGSを意識した、無駄のない調理ができる。 非常備蓄食の準備方法(ローリングストック)について理解する。 非常備蓄品を活用した災害時の調理について考えることができる。 	<p>ワークノート ワークシート</p> <p>行動観察 調理実習記録</p> <p>行動観察 調理実習記録</p> <p>【後期中間考査】</p>	○	○	○
12～	特別編成時間割のため開講されない						

<学習内容についての補足説明>

※調理実習は季節の材料などを考慮し、年間を通して実施します。

※授業は、講義と実習を組み合わせで行うので、毎週実習があるわけではありません。

4. 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。

知識・技能	○身体を健康に維持するため、五大栄養素の種類と役割、水のはたらきについて科学的に理解しているか。 ○食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて正しく理解しているか。
思考・判断・表現	○日本の食生活の現状と課題について把握し、自分自身の食生活に結びつけて考察することができるか。 ○食品の安全性や衛生面に配慮し、適切な選択や判断ができるか。 ○調理操作が料理の出来栄に与える影響を考え、工夫することができるか。 ○環境に配慮した食材の選択や調理方法を考えることができるか。 ○食事のテーマや内容に応じた盛り付けや配膳ができるか。
主体的に学習に取り組む態度	○自分や家族の健康を考え、食生活を見直し改善しようとしている。 ○実習においては、作業工程を考え自分の役割を認識し、周りと協力しながら意欲的且つ効率的に動くことができる。 ○自分の食生活に関心を持ち、彩り豊かな食生活を目指しデザインしていこうとする姿勢が見られる。

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

- ・年2回の定期考査（前期中間・後期中間）
- ・調理実習記録
- ・実習等への取り組み状況
- ・調理技術（実技テストあり）
- ・ワークノート
- ・ワークシート

また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。

5. 特に強調しておきたい点

生活の中で「食」はなくてはならないものです。豊かな食生活は、健康面だけでなく精神的な満足感も与えてくれます。知識や技術を身につけることだけでなく、「食生活」を自ら総合的にデザインできる能力と実践的な態度を身につけるよう努力しましょう。

年間を通して調理実習を行います。協力して実習に取り組みながら、食生活の充実向上を目指しましょう。

情報探究

科目	情報探究		年次・コース	3年次 AB組	
単位数	2	使用教科書	集中ドリル情報Iプログラミング(数研)	副教材・問題集等	情報I実践攻略 大学入学共通テスト問題集(実教) 2027年度用 共通テスト実践模試⑤情報I(Z会)

1. 科目の目標

情報社会における課題を発見し、探究する能力を養う。収集・分析した情報を基に、論理的思考力と問題解決能力を向上させる。情報技術を創造的に活用し、社会に貢献する意欲と態度を育む。

2. 評価の観点の趣旨

知識・技能(技術) a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
目的に応じて適切な情報手法を選択・活用できる力を身に付ける。デジタル技術を正しく使い、信頼性の高い情報を取捨選択することができる。	集めた情報を多面的に比較・検討し、課題に対して妥当な結論を導く思考力を身に付けている。自らの考えを論理的に構成し、文章・発表など多様な方法で分かりやすく表現することができる。	自ら課題を見だし、目的意識をもって情報を探究しようとする。学習の過程を振り返り、よりよい探究の方法を工夫しながら継続的に学びを深めることができる。

3. 学習の計画

月	単元	指導項目	予定時間	主な学習活動(指導内容)と到達目標	評価の場面・方法	評価の観点		
						a	b	c
4	2年時の復習	プログラミング	6	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムを考え簡単なプログラムを作成することができる。 ・アルゴリズムを適切な方法(フローチャート等)で表現できる。 	行動観察		○	○
		シミュレーション	6	<ul style="list-style-type: none"> ・現象をモデル化する際の考え方(単純化・前提条件)を理解し説明できる。 ・結果をグラフ等で表し、傾向や理由を論理的に説明できる。 	発表評価	○		○
6	データ分析実践	情報社会の動向と課題理解 探究テーマの設定	8	<ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の特徴や最新動向を理解し、具体例を挙げて説明できる ・社会の変化を自分ごととして捉え、探究テーマにつながる問題意識を持てる。 	行動観察	○		○
7		データ収集計画と一次データ設計及び基礎分析等	8	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じて必要な情報を整理し、適切な収集方法を選択できる。 ・数値・文章データの特徴を読み取り、傾向を説明できる。 計画→設計→収集→分析の一連の探究プロセスを自力で遂行できる。	行動観察	○	○	○
8 9		まとめ・発表 定期考査	7	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の目的・方法・結果・考察を論理的に整理し、一貫した文章としてまとめることができる。 ・データに基づいて妥当な結論を導き、課題の本質に迫る考察を示すことができる。 ・グラフ・図表・引用などを適切に用いて、主張 	発表評価 ハーパーテスト	○	○	○

				を視覚的に補強できる。				
10	プログラミン グ実習	デバッグとプログラム改善	8	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて変数・条件分岐・繰り返しなどを組み合わせたプログラムを作成できる ・エラーや不具合を発見し、修正するためのデバッグができる ・問題解決のためにプログラムを設計し、改善しながら完成させることができる 	行動観察			○ ○
11		設計→実装→テスト→改善	7	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトとの連携（CSVの読み書きなど）を理解できる。 ・外部データや素材を利用する際の著作権を理解する。 	行動観察			○ ○
12	特別編		20	既習事項のまとめをする。	行動観察	○	○	○
1	成授業							
2								
年間授業時間数			70					

4 評価の観点・方法（及び年間の評定）

評価は、次の3つの観点から行います。	
知識・技能	目的に応じて適切な情報手法を選択・活用できる力を身に付ける。デジタル技術を正しく使い、信頼性の高い情報を取捨選択することができる。
思考・判断・表現	集めた情報を多面的に比較・検討し、課題に対して妥当な結論を導く思考力を身に付けている。自らの考えを論理的に構成し、文章・発表など多様な方法で分かりやすく表現することができる。
主体的に学習に取り組む態度	自ら課題を見だし、目的意識をもって情報を探究しようとする。学習の過程を振り返り、よりよい探究の方法を工夫しながら継続的に学びを深めることができる。
このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（期間中に学習した内容でテストを行います。） ・課題作品提出（実習で作成した課題で評価をします。） ・学習への参加状況（実習への取り組み状況、授業中の発言内容、振り返りシート等） 	
また、1年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定します。	

5 特に強調しておきたい点

教科「情報」は生きた教科です。今日習った最新の知識が明日には過去の知識となることもあります。普段の生活の中からいろいろな情報技術に触れ、そして、そこから手にした情報や知識を生かしていく情報活用能力を身につけてください。

令和8年度 教育 課程 表

岐阜県立斐太高等学校 全日制課程 単位制 普通科(普通)

1年次

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
現代の国語 (2)		言語文化 (2)			歴史総合 (2)		公共 (2)		数学Ⅰ (3→2)		数学Ⅱ (4)	数学A (2)		化学基礎 (2)		生物基礎 (2)		体育 (7～8)		保健 (2)	音楽Ⅰ (2)	美術Ⅰ (2)	英語コミュニケーションⅠ (3)			論理・表現Ⅰ (2)		家庭基礎 (2)		* (3～6→2)	HR		

※ 期間履修

* :総合的な探究の時間

2年次文系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理総合 (2)		日本史探究 (3)		世界史探究 (3)		数学Ⅱ (4)		数学B (2)	数学C (2)	地学基礎 (2)		体育 (7～8)		保健 (2)	英語コミュニケーションⅡ (4)			論理・表現Ⅱ (2)		情報Ⅰ (2)		* (3～6→2)	HR					

※ 期間履修

* :総合的な探究の時間

2年次理系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理総合 (2)		数学Ⅱ (4)		数学Ⅲ (3)	数学B (2)	数学C (2)	物理基礎 (2)		物理 (4)	化学 (4)		体育 (7～8)		保健 (2)	英語コミュニケーションⅡ (4)			論理・表現Ⅱ (2)		情報Ⅰ (2)		* (3～6→2)	HR					

※ 期間履修

※ 期間履修

※ 期間履修

* :総合的な探究の時間

3年次文系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		国語特講(学)			古典探究 (4)		日本史探究 (3)		日本史特論(学)	地理探究 (3)		日本史探究 (3)	数学C (2)		地歴特講 (地理) (学)	地歴特講 (日本史) (学)	地歴特講 (世界史) (学)	文系数学特講(学)	化学基礎探究 (学)	生物基礎探究 (学)	英語コミュニケーションⅢ (4)			論理・表現Ⅲ (2)		HR							

生物探究(学)

3年次理系

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	備考
論理国語 (4)		古典探究 (4)			地理探究 (3)		地理特論(学)	日本史探究 (3)		日本史特論(学)	数学Ⅲ (3)		理系数学特講A(学)	数学C (2)		物理 (4)		生物 (4)		英語コミュニケーションⅢ (4)			論理・表現Ⅲ (2)		HR								

※ 期間履修

整理番号